

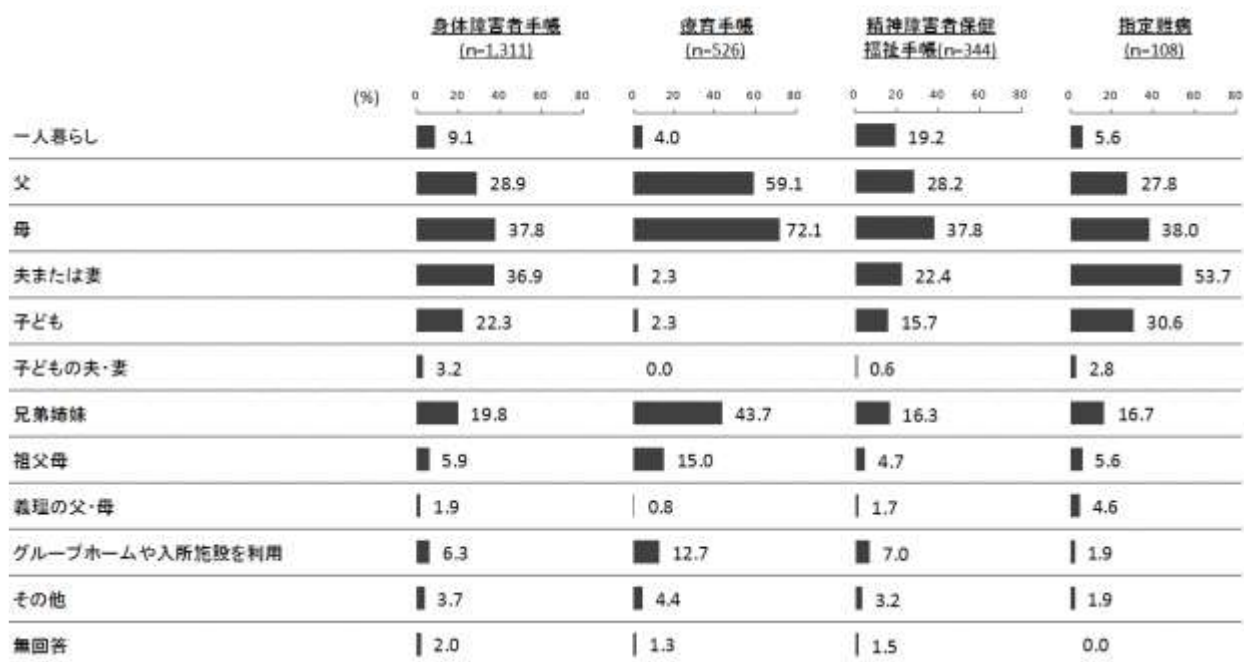
i 障がい福祉に関する市民アンケートの調査結果(障がいのある人)【概要版】

2. 家族や支援者について

(1) 同居者

問9 あなたは、どなたと一緒に暮らしていますか。(〇はいくつでも)

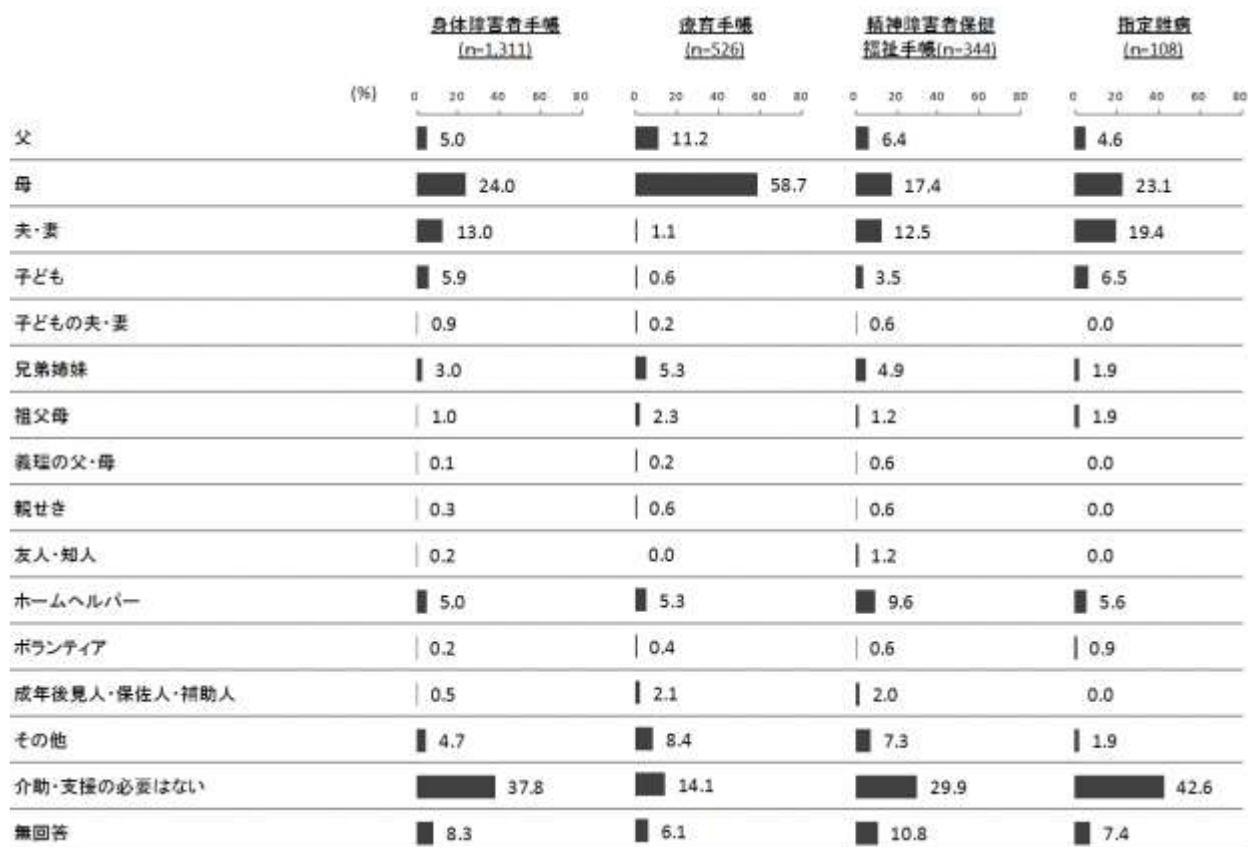
身体障害者手帳所有者では「母」と並んで「夫または妻」との同居率が高く、指定難病者では「夫または妻」との同居率が特に高くなっている。療育手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者では「父」「母」と同居している人の割合が高い。



(2) 主な介助者

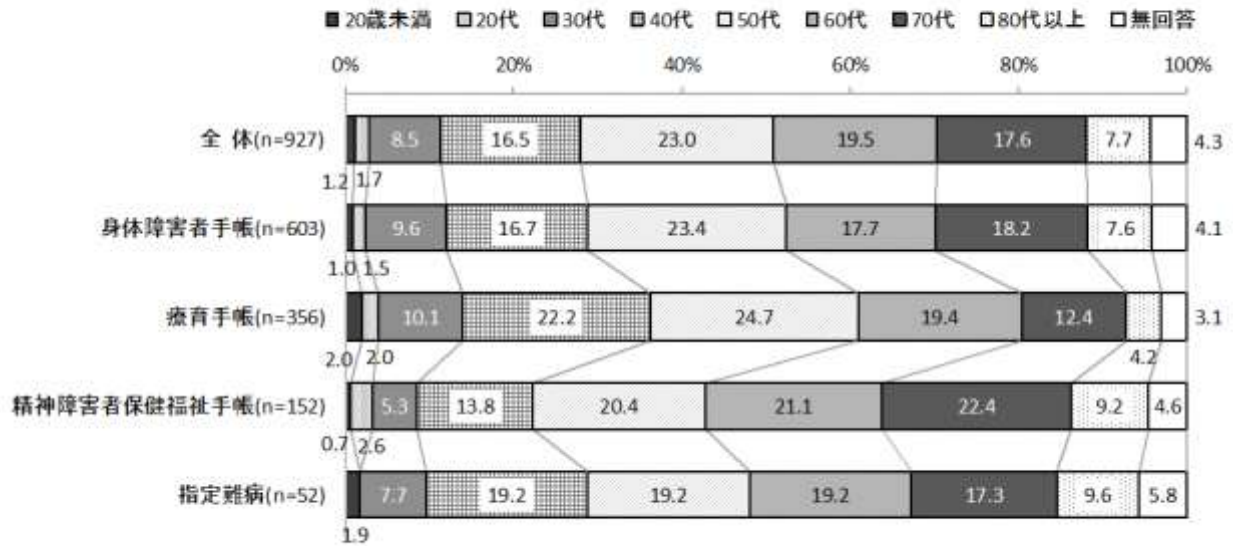
問 10 あなたは、普段の生活で介助又は支援を必要としていますか。
 介助又は支援が必要な方は、主な介助者又は支援者は誰ですか。(○は1つ)

身体障害者手帳所有者については「介助・支援の必要はない」が37.8%を占めているが、介助者・支援者（以下「介助者」）としては「母」が24.0%と最も高い。療育手帳所有者では「母」が58.7%と最も高い。精神障害者保健福祉手帳所有者では「介助の必要はない」が29.9%となっているが、介助者としては「母」が17.4%となっている。指定難病では「介助の必要はない」は42.6%となっている。



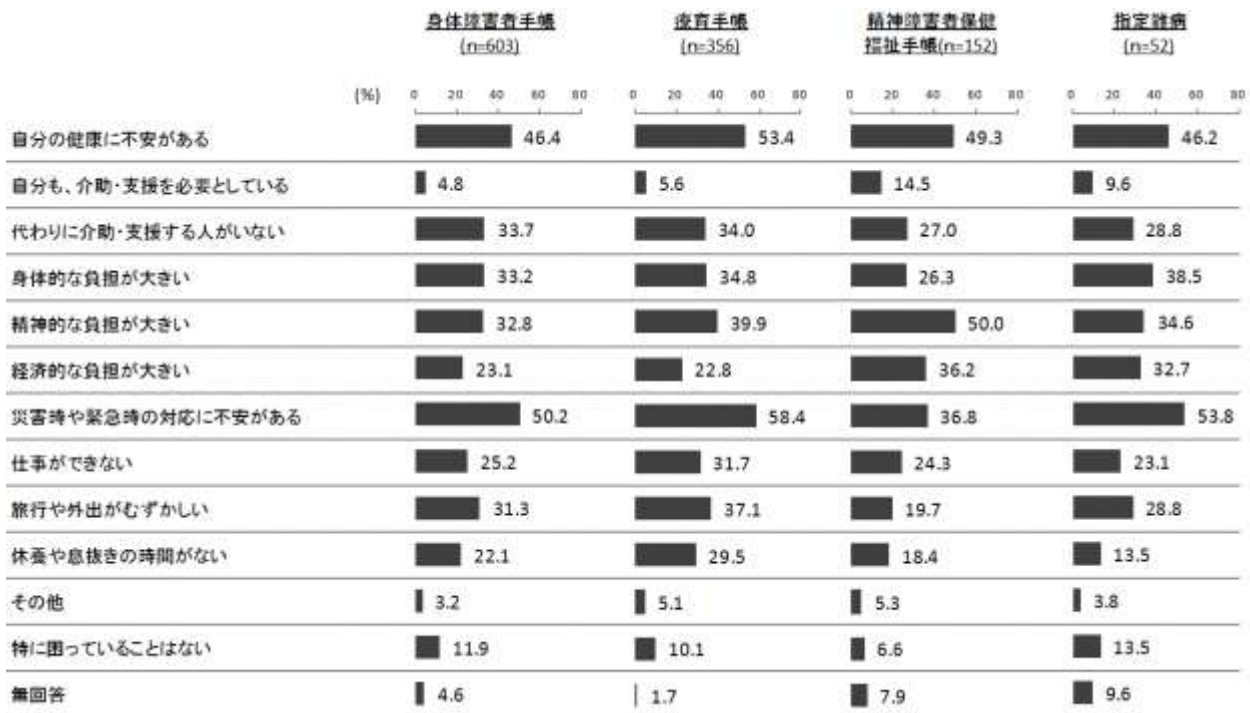
付問①（介助・支援をしている方にお伺いします）
 主な介助者又は支援者の年齢はいくつですか。（○は1つ）

主な介助者の年齢としては、精神障害者保健福祉手帳所有者で60代以上が5割を占めている。療育手帳所有者については「50代」が24.7%と最も高い。



付問②（介助・支援をしている方にお伺いします）
 介助・支援をしていて困ることは何ですか。（○はいくつでも）

介助・支援をする上で困っていることは、身体障害者手帳所有者、療育手帳所有者、指定難病者では「災害時や緊急時の対応に不安」が5割を越し、最も高い割合となっている。精神障害者保健福祉手帳所有者においては「精神的な負担が大きい」が50.0%でトップ。また、4者ともに「自分の健康に不安」が2番目に高い項目となっている。そのほか、「代わりに介助する人がいない」「身体的な負担が大きい」などの数値も高くなっている。

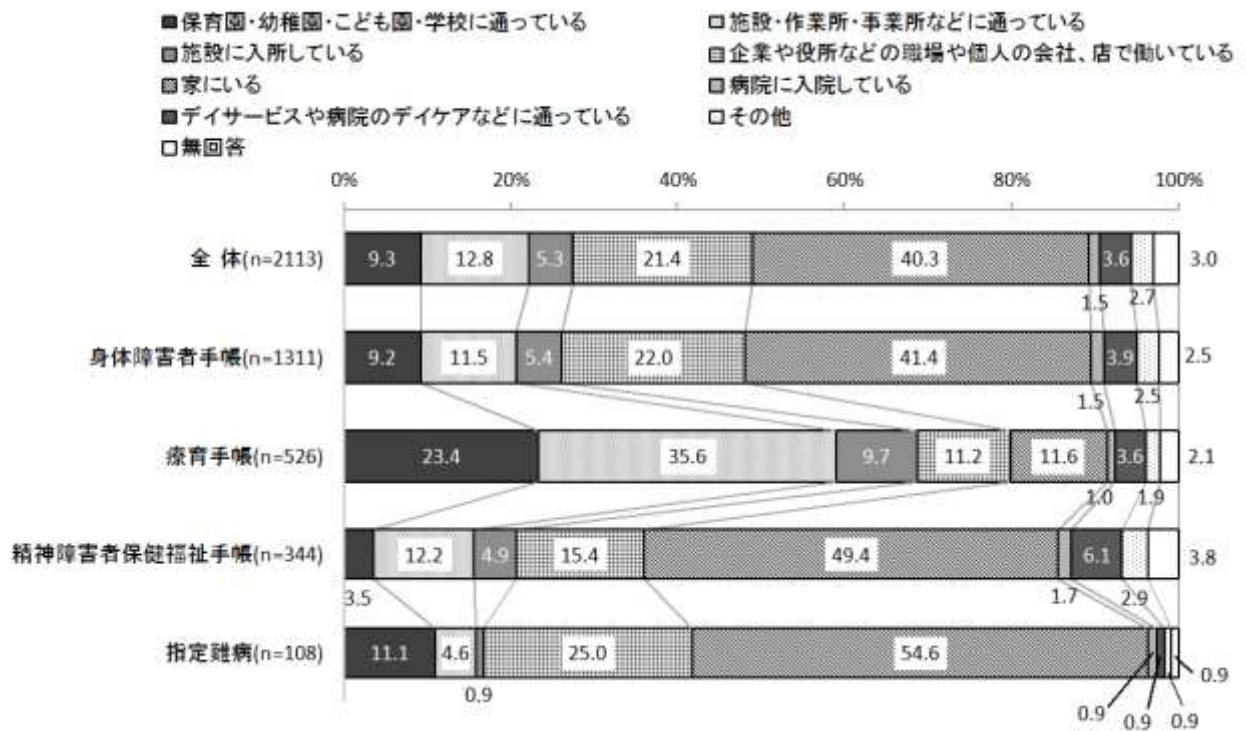


1. 日常生活について

(1) 日中の過ごし方

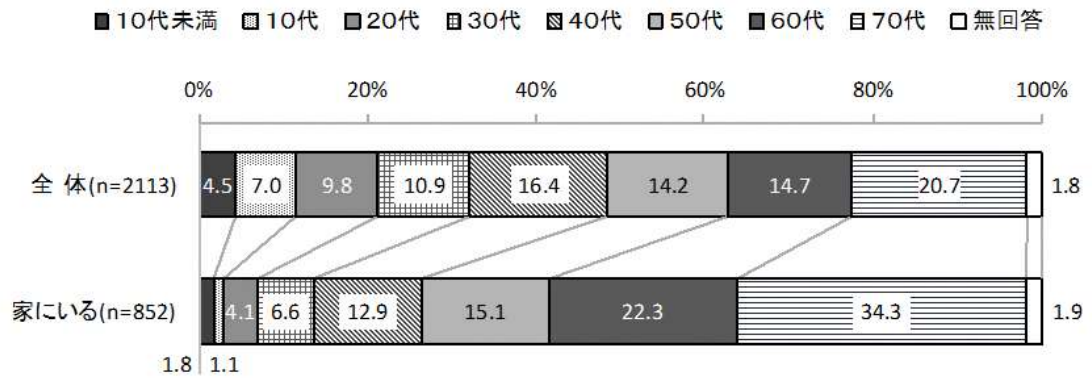
問 11 あなたは、日中は主にどこで過ごしていますか。(○は1つ)

身体障害者手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者、指定難病者は、「家にいる」が最も高く、いずれも4~5割を占めている。次いで「職場や会社、店」の割合が高い。療育手帳所有者では「施設・作業所・事業所など」35.6%、「保育園・幼稚園・こども園・学校」23.4%の順に高い。



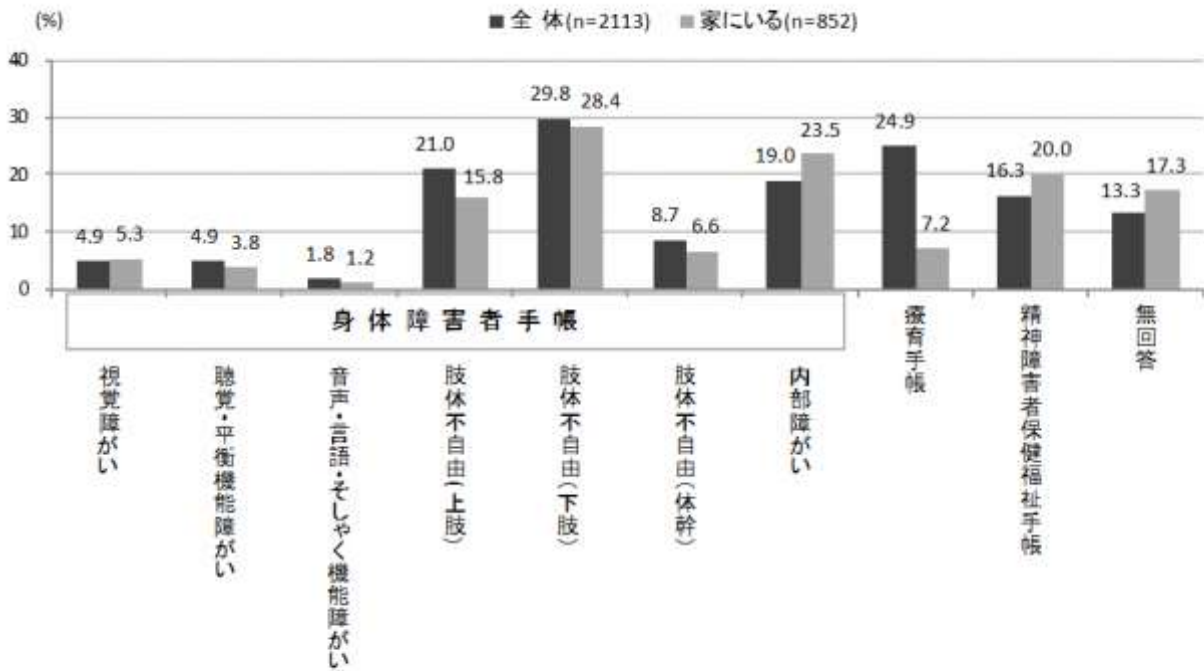
<「家にいる」と回答した人の年代構成>

日中「家にいる」人の年代構成は、60代以上で5割以上を占めている。



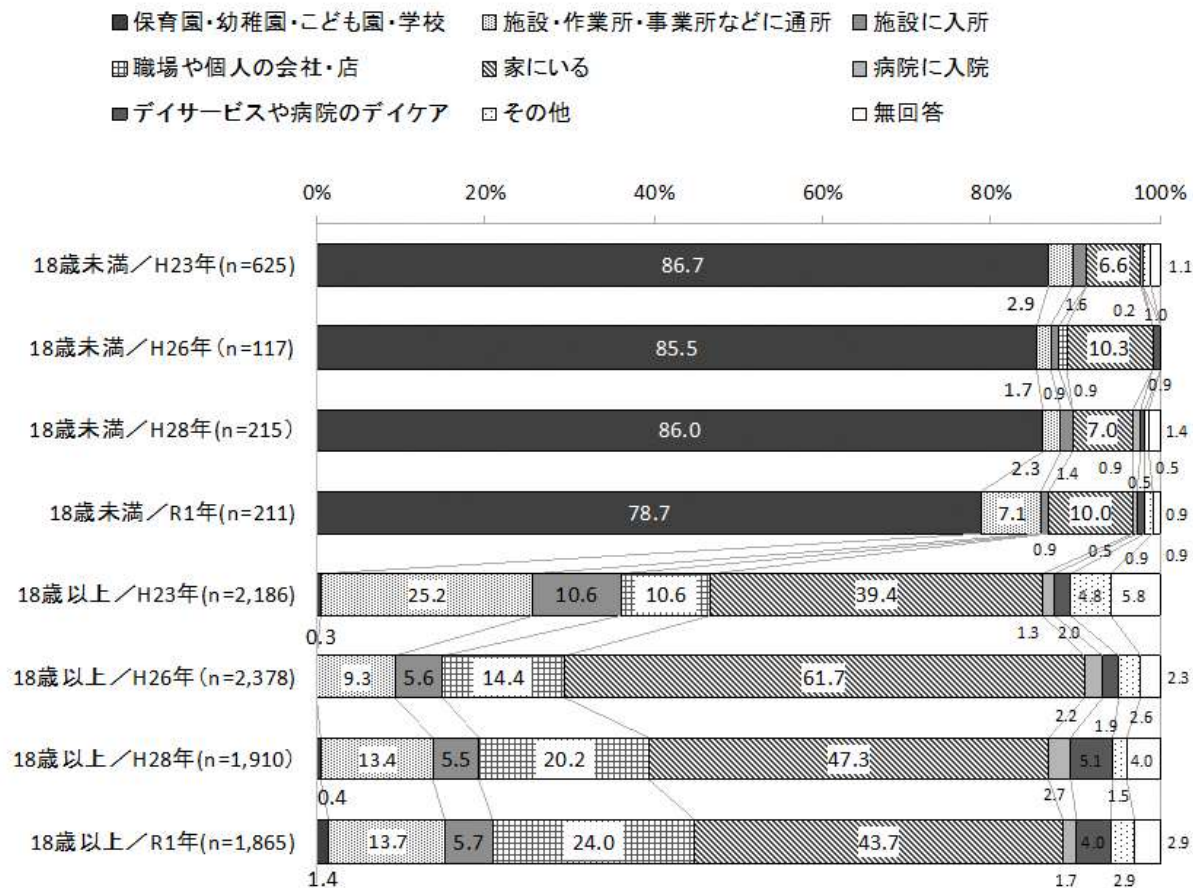
<「家にいる」と回答した人の所有する手帳の種類>

「家にいる」人では、療育手帳を持っている割合が全体より著しく低い。



<経年変化>

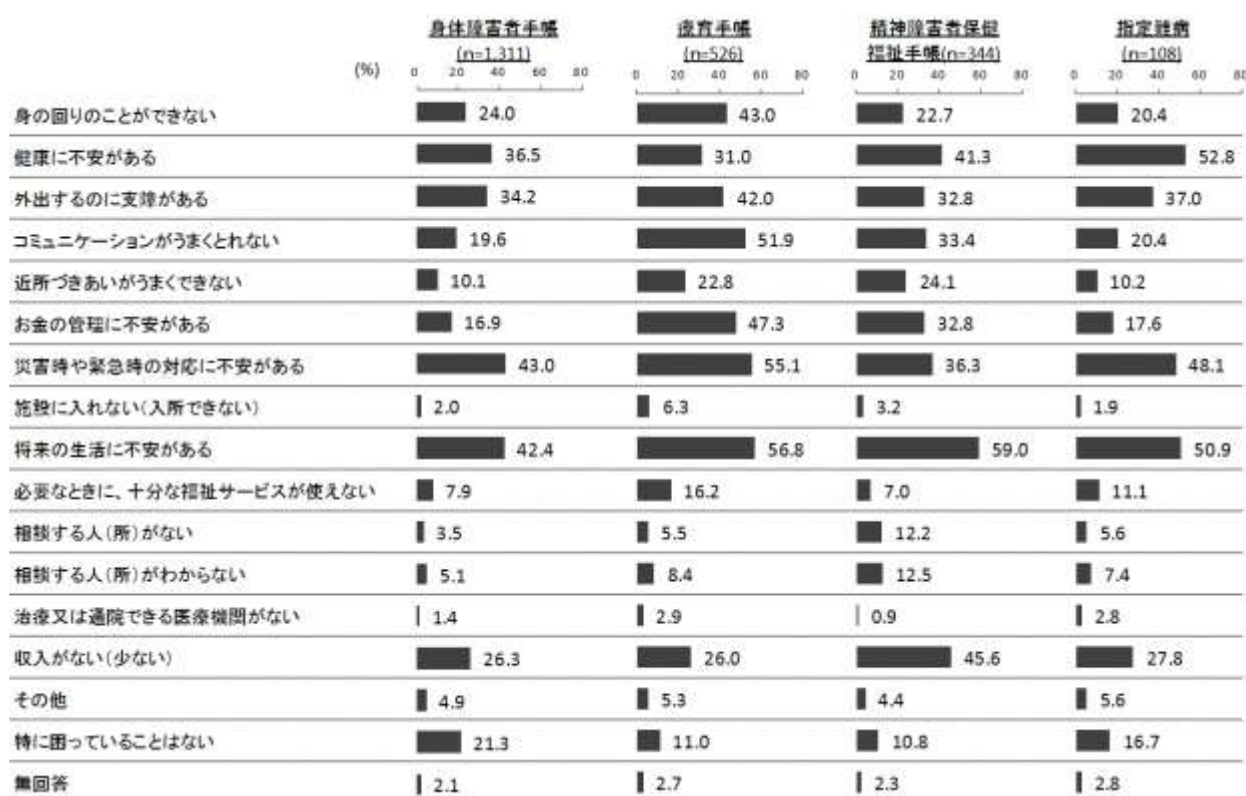
過去の調査結果と比較すると、18歳以上において「職場や個人の会社・店」の割合が年々高くなってきている。



(3) 日常生活の悩み

問 13 あなたは、日常生活で困っていることはありますか。(〇はいくつでも)

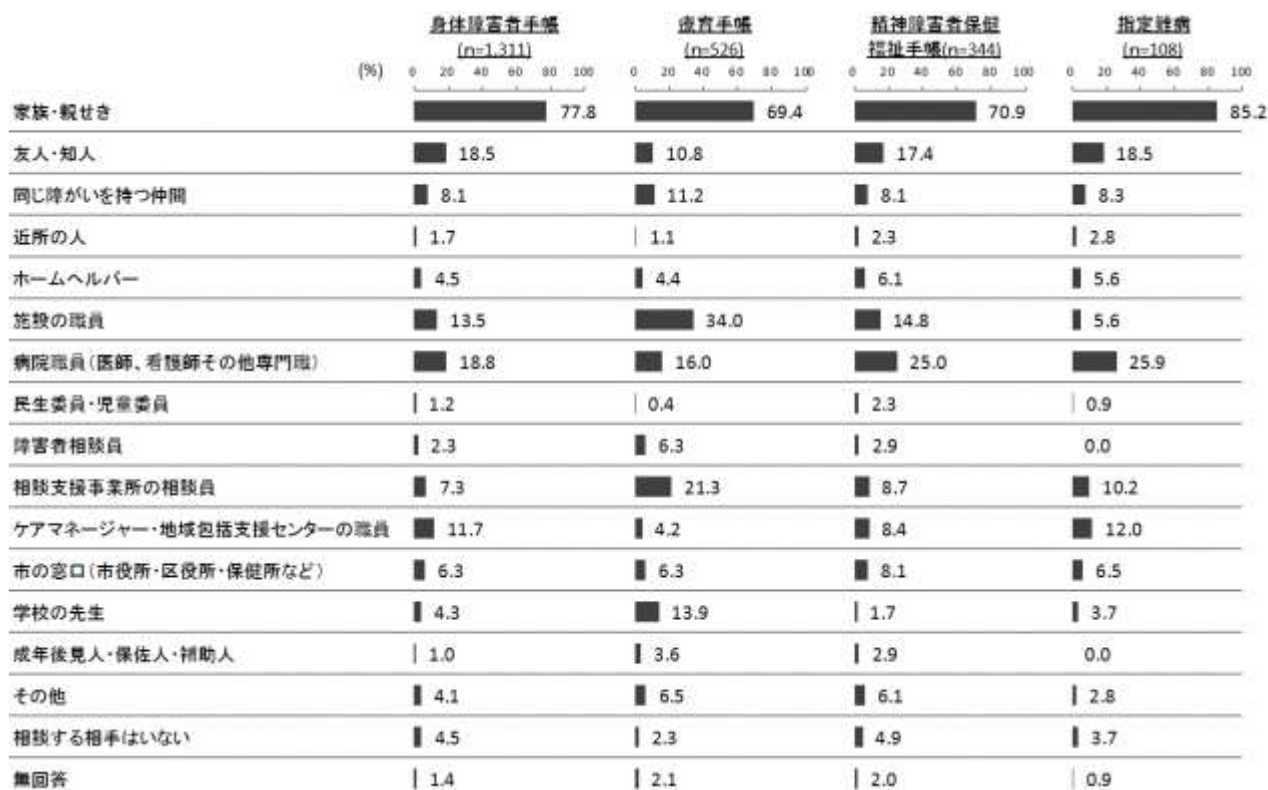
身体障害者手帳所有者においては、「災害時や緊急時の対応に不安」が 43.0%でトップ。次いで「将来の生活に不安」が 42.4%と僅差で続き、「健康に不安」38.5%、「外出に支障」34.2%の順。療育手帳所有者では、「将来の生活に不安」が 56.8%でトップ。次いで「災害時や緊急時の対応に不安」が 55.1%、「コミュニケーションがうまくとれない」が 51.9%。精神障害者保健福祉手帳所有者では「将来の生活に不安」が 59.0%でトップ。次いで「収入がない」が 45.6%、「健康に不安がある」が 41.3%。指定難病者では、「健康に不安がある」が 52.8%でトップ。次いで「将来の生活に不安」が 50.9%、「災害時や緊急時の対応に不安」が 48.1%。



(4) 困ったときの相談先

問 14 あなたは、困った時は誰(どこ)に相談していますか。(〇はいつでも)

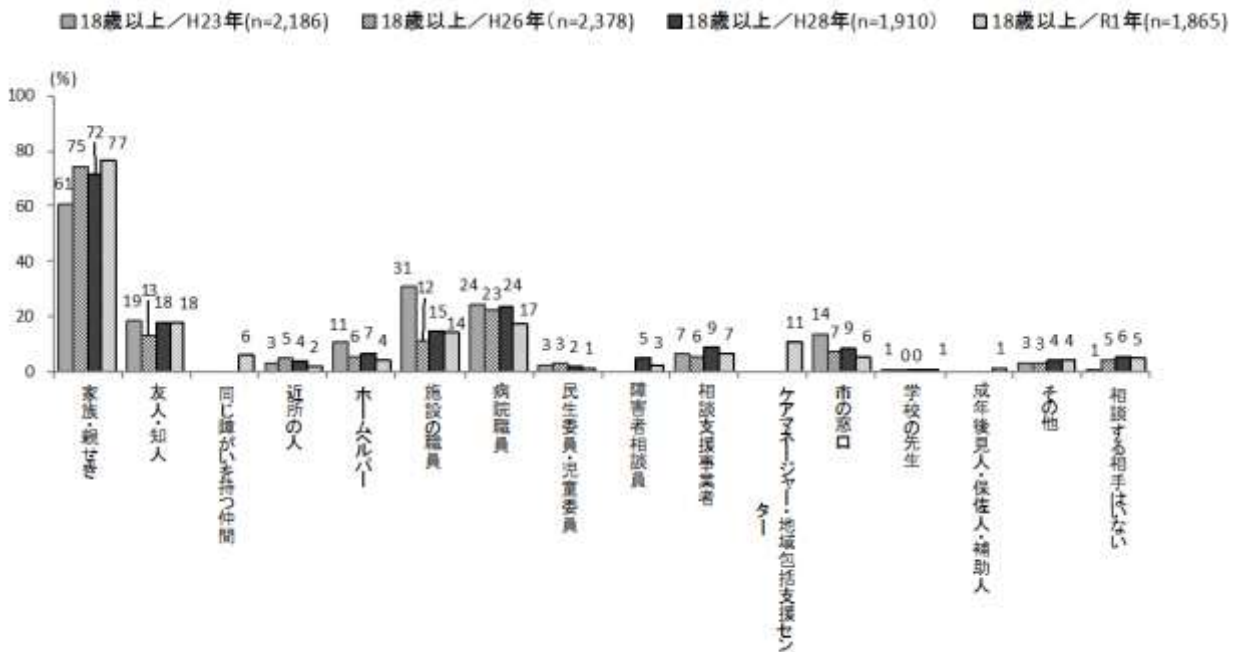
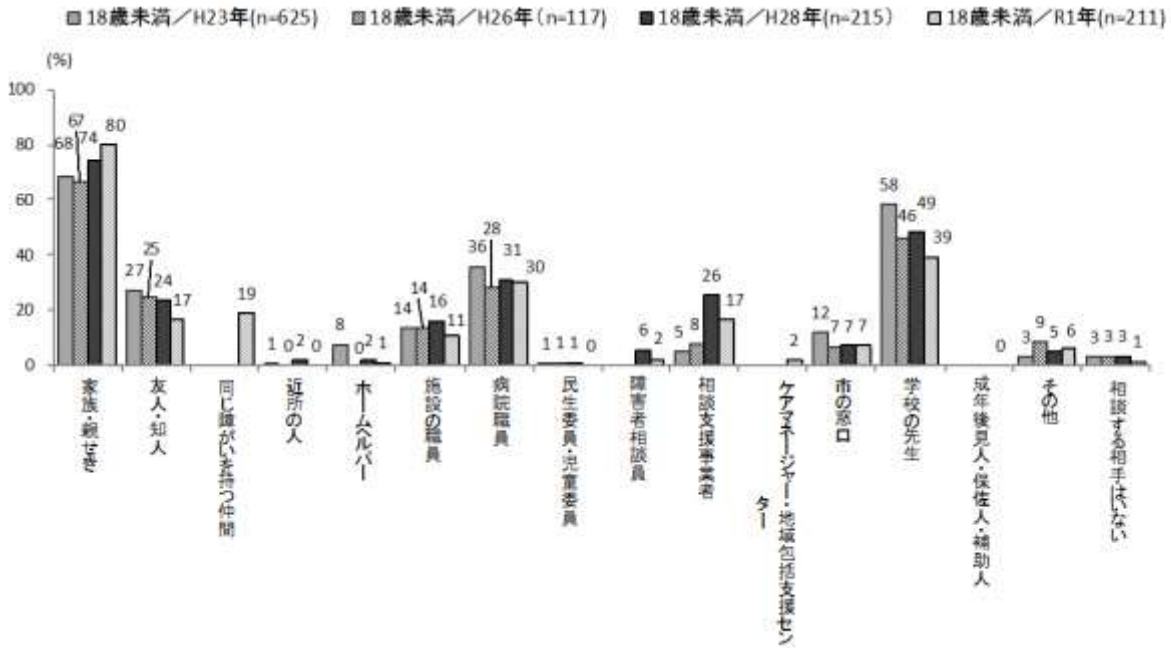
身体障害者手帳所有者、療育手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者、指定難病者のいずれにおいても、「家族・親せき」が最も高い。また、身体障害者手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者、指定難病者においては、「病院職員」が「家族・親せき」に次いで高く、2割程度となっている。療育手帳所有者では「施設職員」が34.0%と高い。



<経年変化>

過去の調査結果と比べると、「家族・親せき」の割合が年々高くなる傾向があり、「学校の先生」や「友人・知人」は低くなる傾向にある。

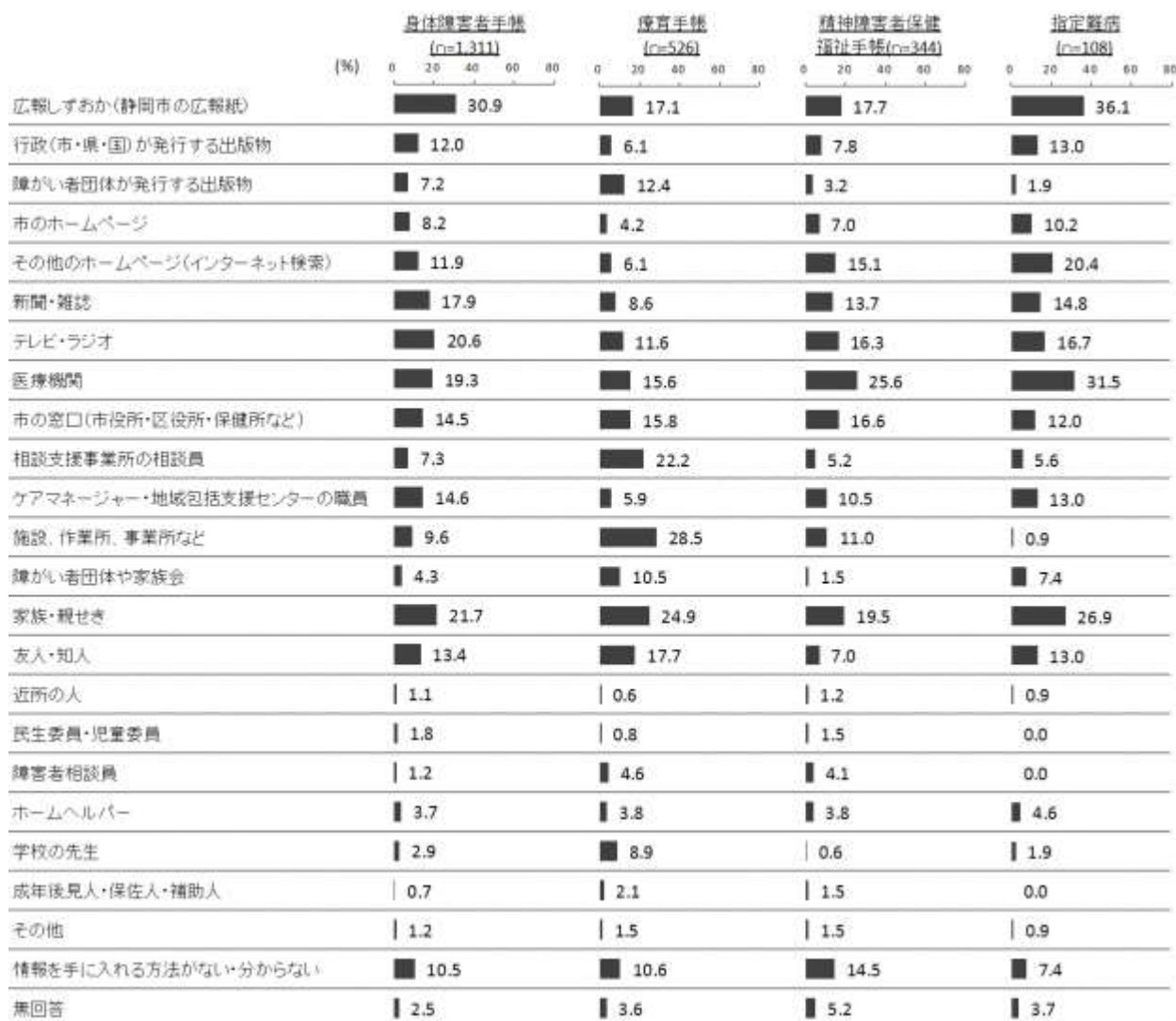
※「同じ障がいを持つ仲間」「ケアマネジャー・地域包括支援センターの職員」「成年後見人・保佐人・補助人」は平成23年・平成26年・平成28年調査では選択肢に含まれていない。「障害者相談員」は平成23年・平成26年調査では選択肢に含まれていない。

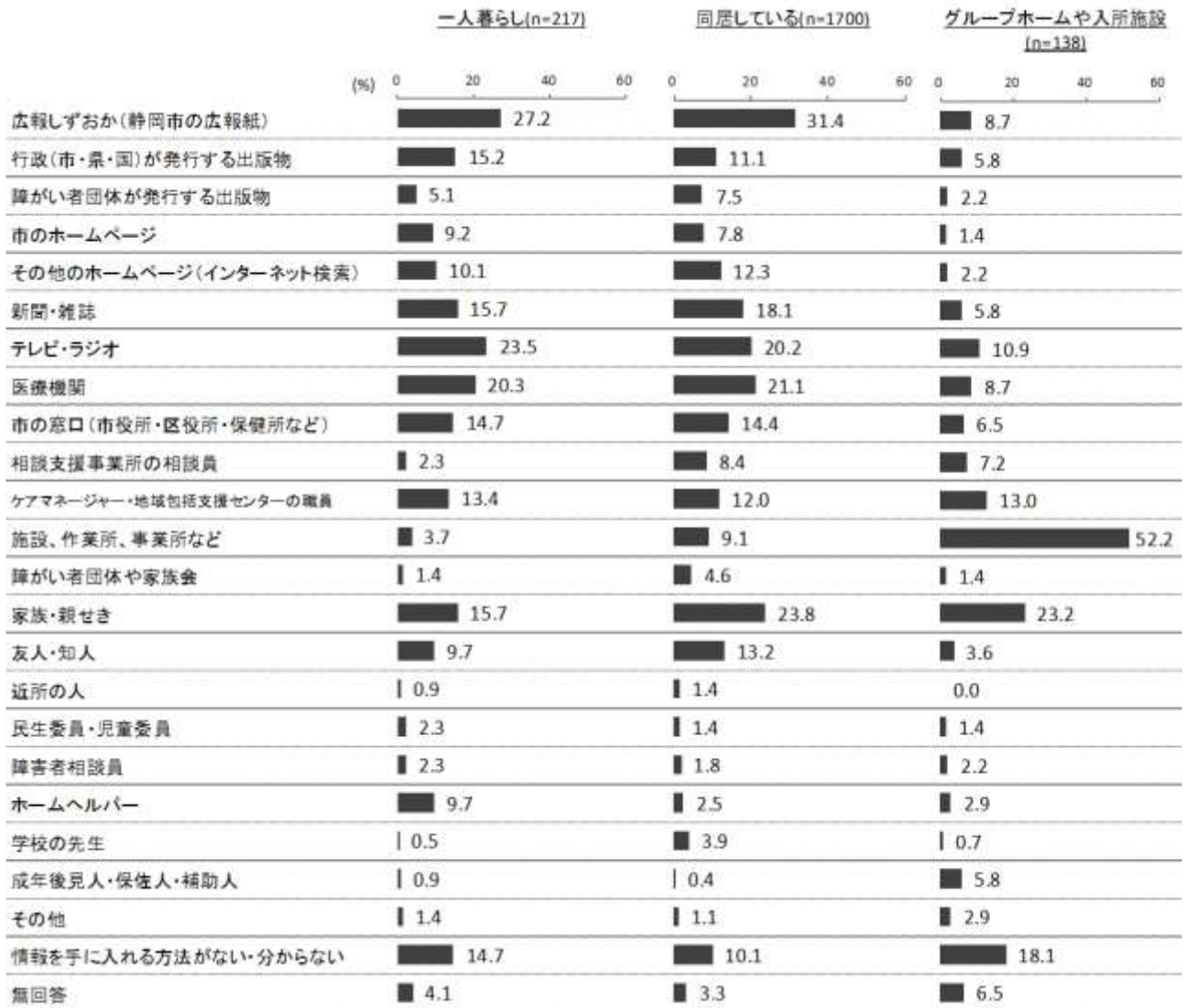


(5) 福祉サービスに関する情報源

問 15 あなたは日頃、福祉サービスに関する情報を何から知ることが多いですか。(〇はいくつでも)

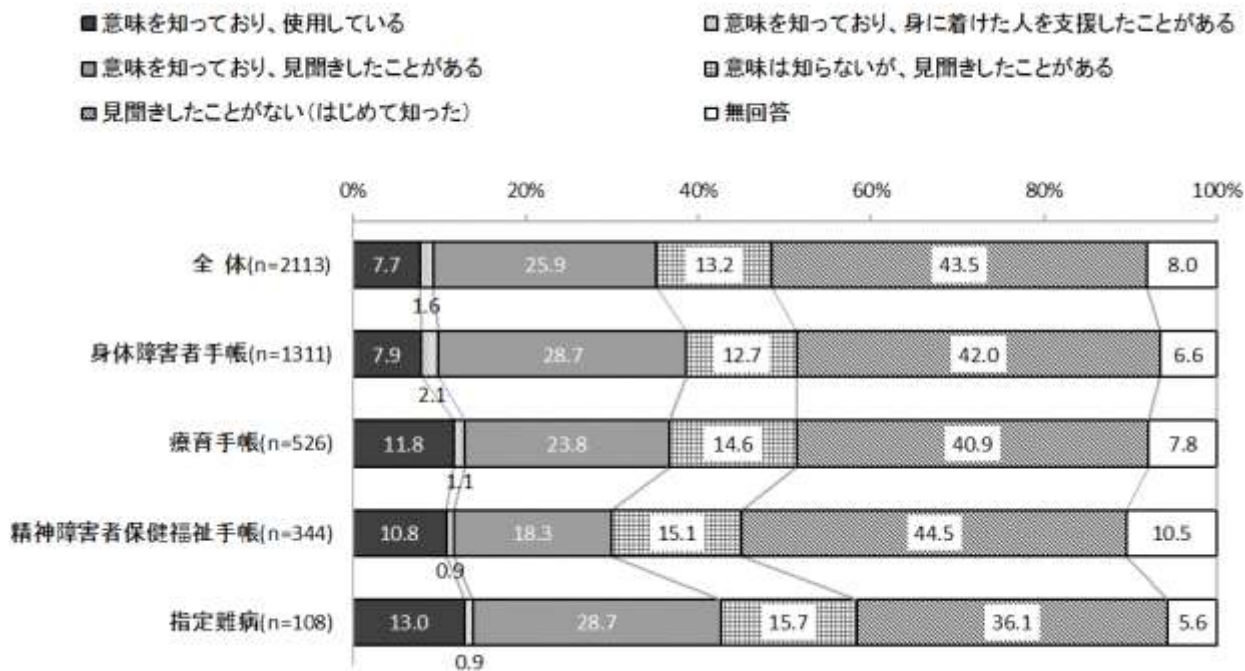
身体障害者手帳所有者、指定難病者では、「広報しずおか」がトップ。身体障害者手帳所有者では「新聞・雑誌」「テレビ・ラジオ」などのマスメディアから情報を収集する人が高くなっている。療育手帳所有者については「施設、作業所、事業所など」が 28.5%と高く、次いで「家族・親せき」24.9%、「相談支援事業所」22.2%となっている。精神障害者保健福祉手帳所有者では「医療機関」が 25.6%で高く、次いで「家族・親せき」「広報しずおか」と続くほか、「情報を手に入れる方法がない・わからない」がやや高い。





(6) ヘルプマークの認知

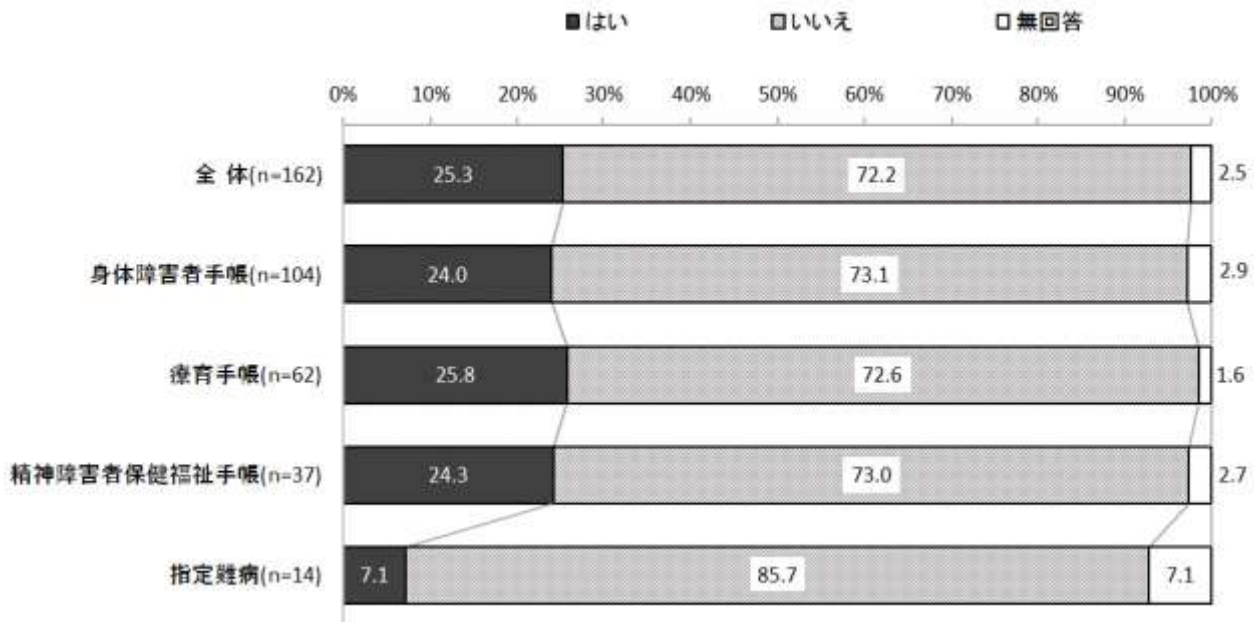
「見聞きしたことがない」が手帳の種別に関わらずトップでおよそ4割を占めている。指定難病者では、「意味を知っており、使用している」が13.0%とやや高く、「見聞きしたことがない」は36.1%と低めとなっている。



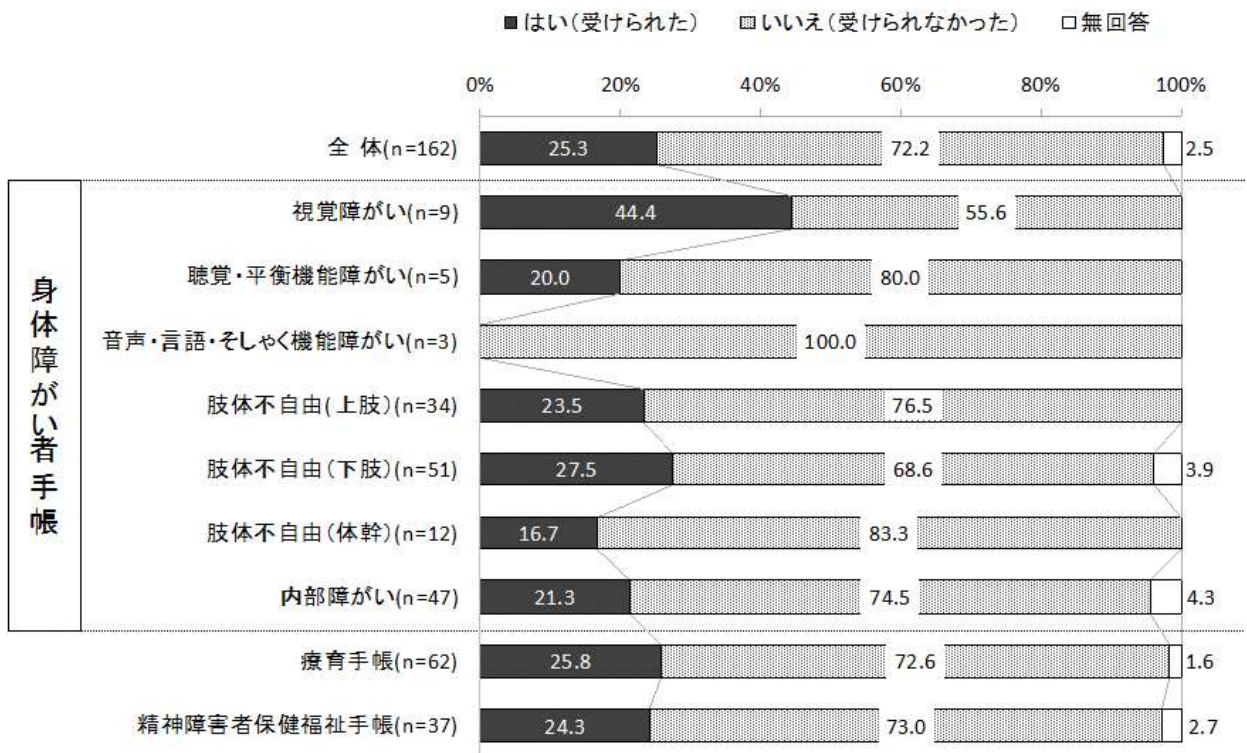
(問 16 で「1 意味を知っており、使用している」と答えた方にお伺いします)
 付問① ヘルプマークを身に着けているときに支援を受けることができましたか。(〇は 1 つ)

「はい (支援を受けられた)」と回答したのは全体の 25.3%で、7 割以上が支援を受けられていない。
 サンプル数が少ないため参考程度ではあるが、指定難病者は特に「はい」が 1 割未満と低い。

障がいの詳細でみると、各サンプル数が少ないためやはり参考程度ではあるが、視覚障がいのある人で「はい」との回答が高い。

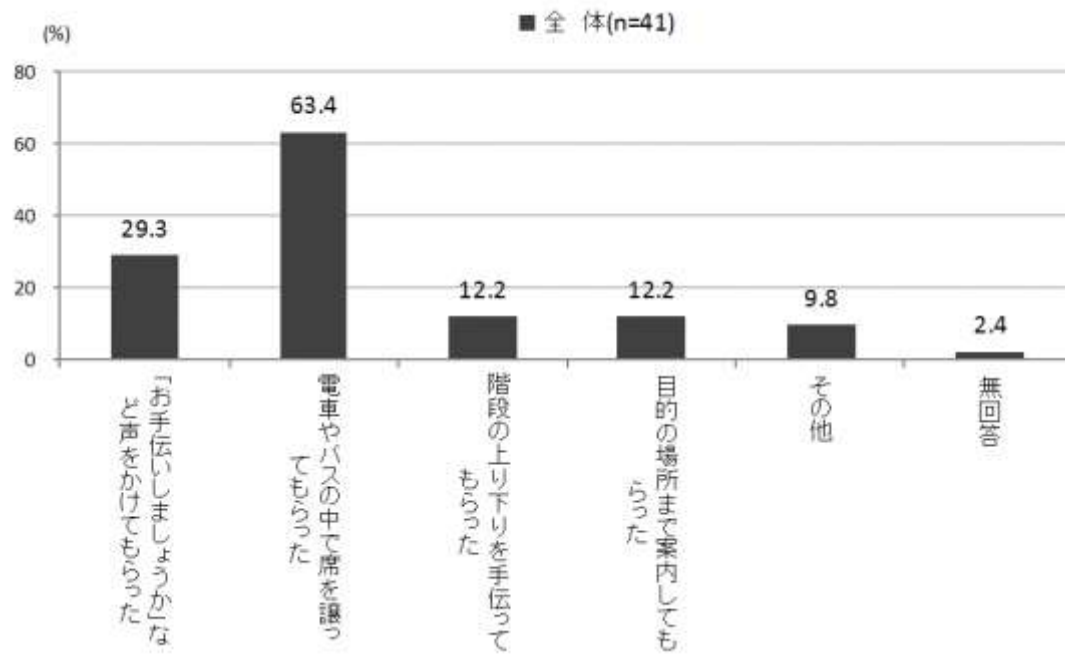


<手帳の種類 (詳細) 別>



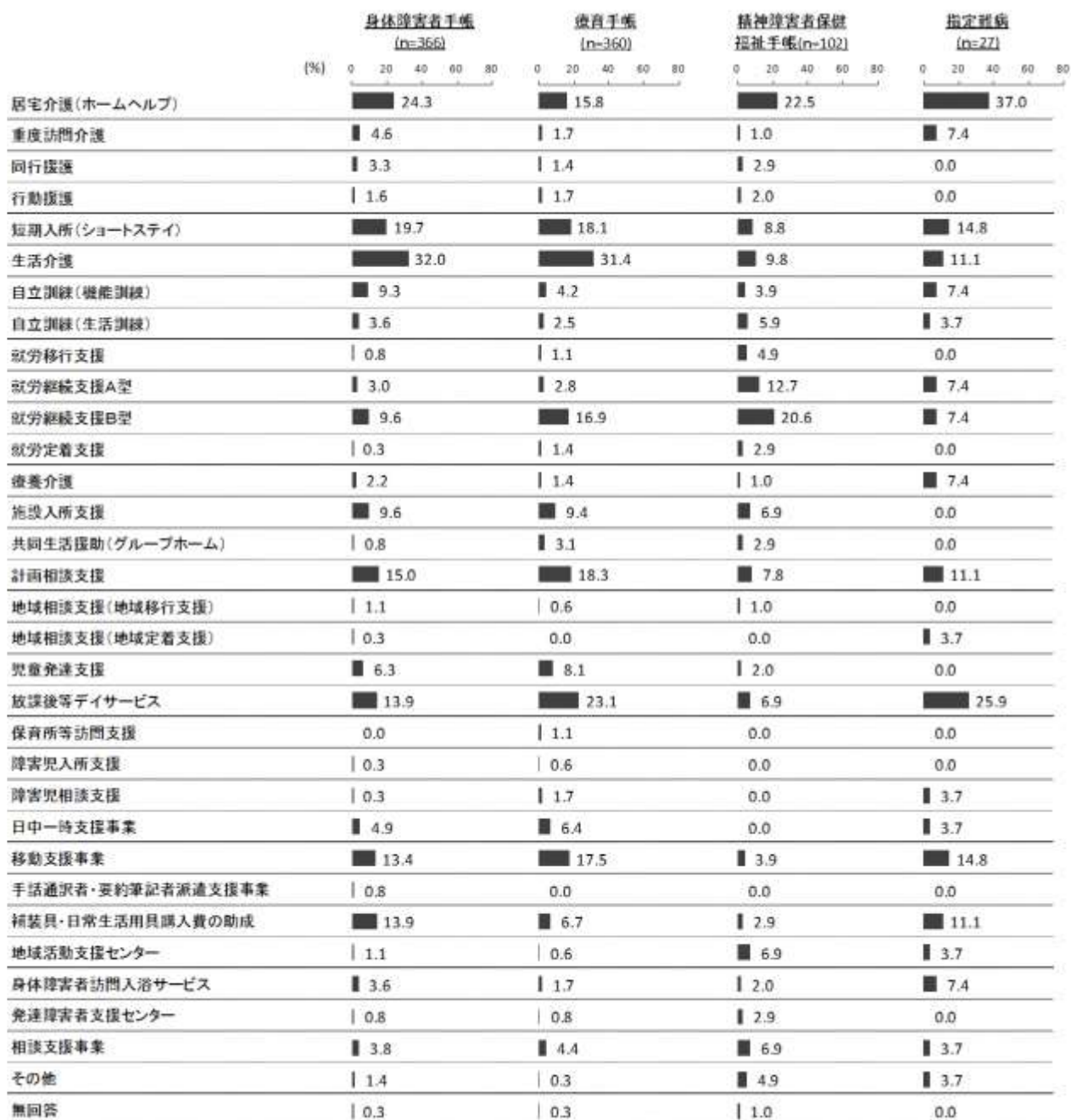
(不問①で「1 はい」と答えた方にお伺いします)
付問② どんな支援を受けることができましたか。(〇はいくつでも)

受けた支援の内容では「電車やバスの中で席を譲ってもらった」が63.4%で最も高かった。



(問 17(2)で「1 利用した」と回答した方にお伺いします)
付問① 利用したサービスをお答えください。(あてはまるもの全てに○)

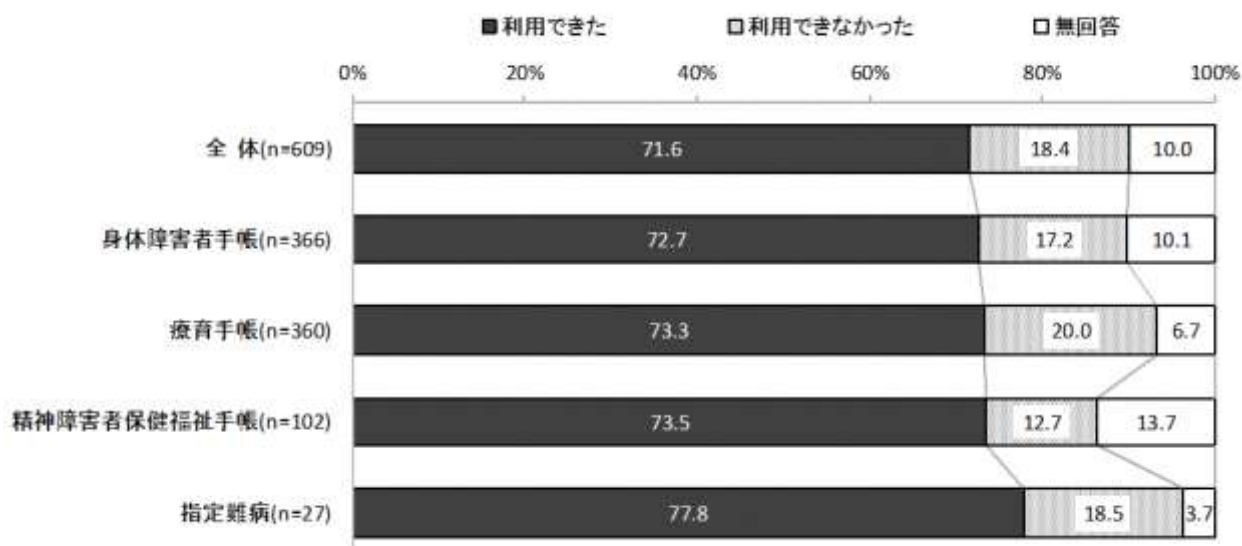
身体障害者手帳所有者において、「生活介護」が 32.0%と最も高い。次いで「居宅介護」24.3%、「短期入所」19.7%と続く。療育手帳所有者では「生活介護」の 31.4%に次いで、「放課後等デイサービス」が 23.1%と高い。精神障害者保健福祉手帳所有者では「居宅介護」が 22.5%、「就労継続支援B型」が 20.6%となっている。指定難病者については、「居宅介護」が最も高く、「放課後等デイサービス」も高くなっている。



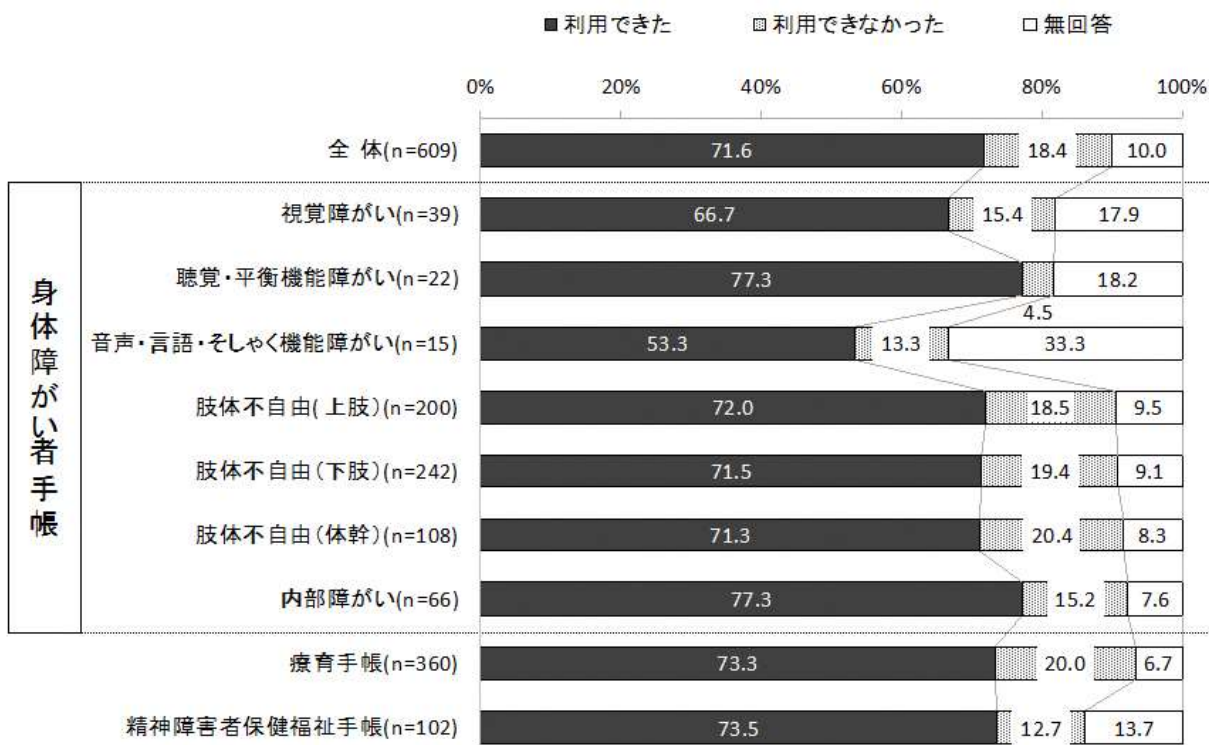
(3) 福祉サービスの利用実態

(問 17(2)で「1 利用した」と回答した方にお伺いします)
 問 18 支給決定(契約)どおり利用できましたか。(○は1つ)

「利用できた」が7割台を占めている。

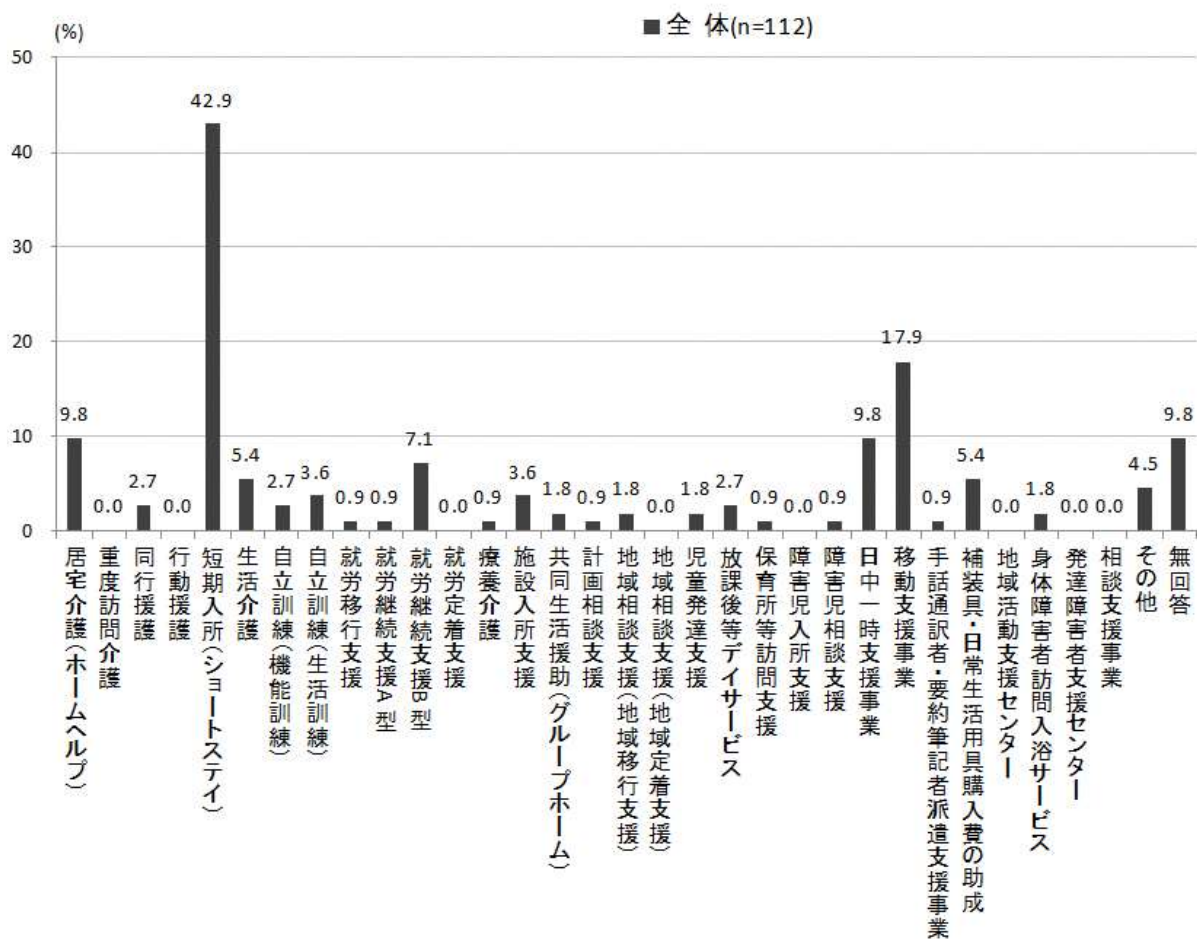


<障害者手帳の種類(詳細)別>



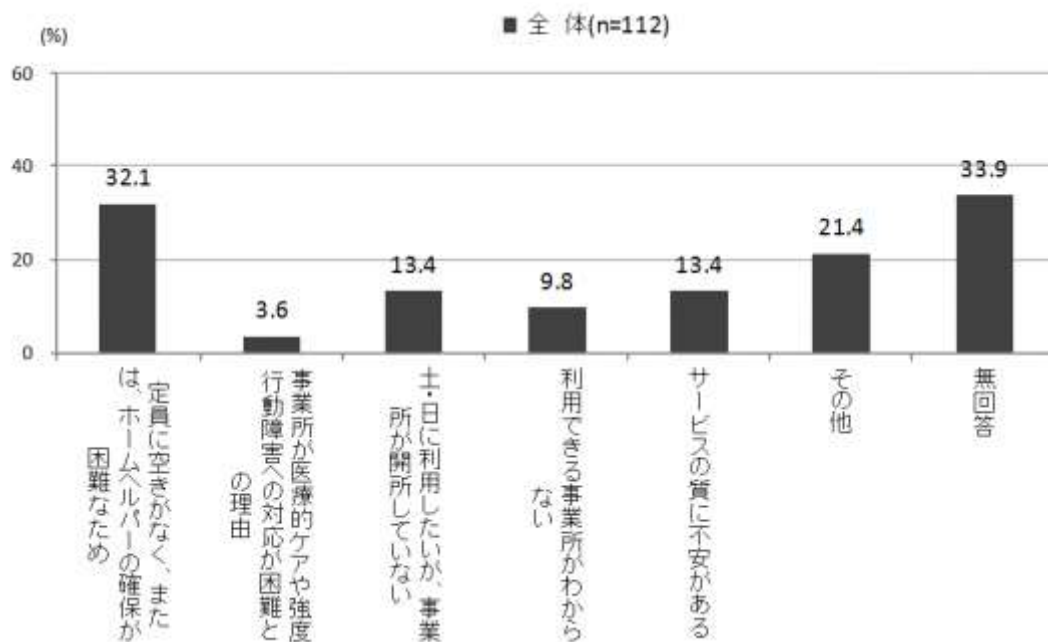
(問 18 で「2 利用できなかった」と回答した方にお伺いします)
 付問① 支給決定(契約)どおり利用できなかったのは、どのサービスですか。
 (ご本人・支援者の判断で利用しなかったものを除き、あてはまるもの全てに○)

利用できなかったサービスでは「短期入所」が 42.9%で特に高い。



(問 18 で「2 利用できなかった」と回答した方にお伺いします)
 付問② 支給決定(契約)どおり利用できなかった理由は何ですか。(〇はいくつでも)

各サービスを利用できなかった理由は、「定員に空きがなく、またはホームヘルパーの確保が困難なため」が 32.1% で高かった。

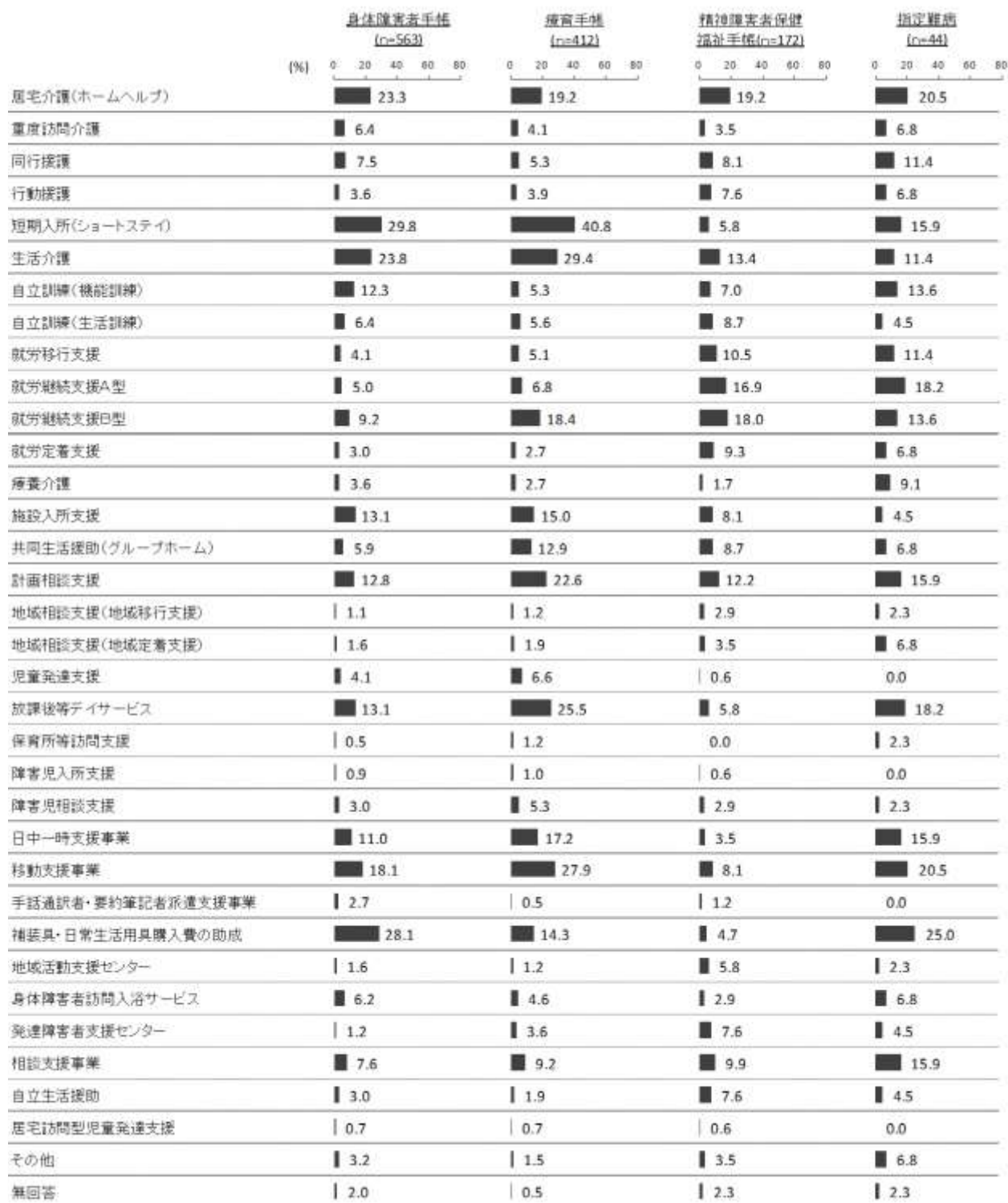


【参考】問 19 「今後もサービス利用したいか。」

療育手帳所有者約 8 割。身体障害者手帳所有者、指定難病者は 4 割、精神障害者保健福祉手帳所有者 5 割。

(問 19 で「1 利用したい」と回答した方にお伺いします。)
付問① 利用したい障害福祉サービス等をお答えください。
(○はいくつでも。現在利用しているサービスを使い続けたい場合も、○をつけてください。)

身体障害者手帳所有者は、「短期入所」29.8%と、「補装具・日常生活用具購入費の助成」が28.1%と高くなっている。療育手帳所有者は「短期入所」が40.8%と最も高い。精神障害者保健福祉手帳所有者は「居宅介護」が高い。指定難病者は「補装具・日常生活用具購入費の助成」「居宅介護」「移動支援事業」が高くなっている。



5. 地域での生活について

(1) 同居者の支援がなくなった場合や独居の将来の不安

問 20 もしも、現在、一緒に暮らしている方と、将来、離れなくてはならなくなったときや一緒に暮らしている方の支援が受けられなくなったときに、不安なことはありますか。また、現在、一人暮らしをされている方は、将来、不安なことはありますか。（○は優先順位の高いものを5つまで）

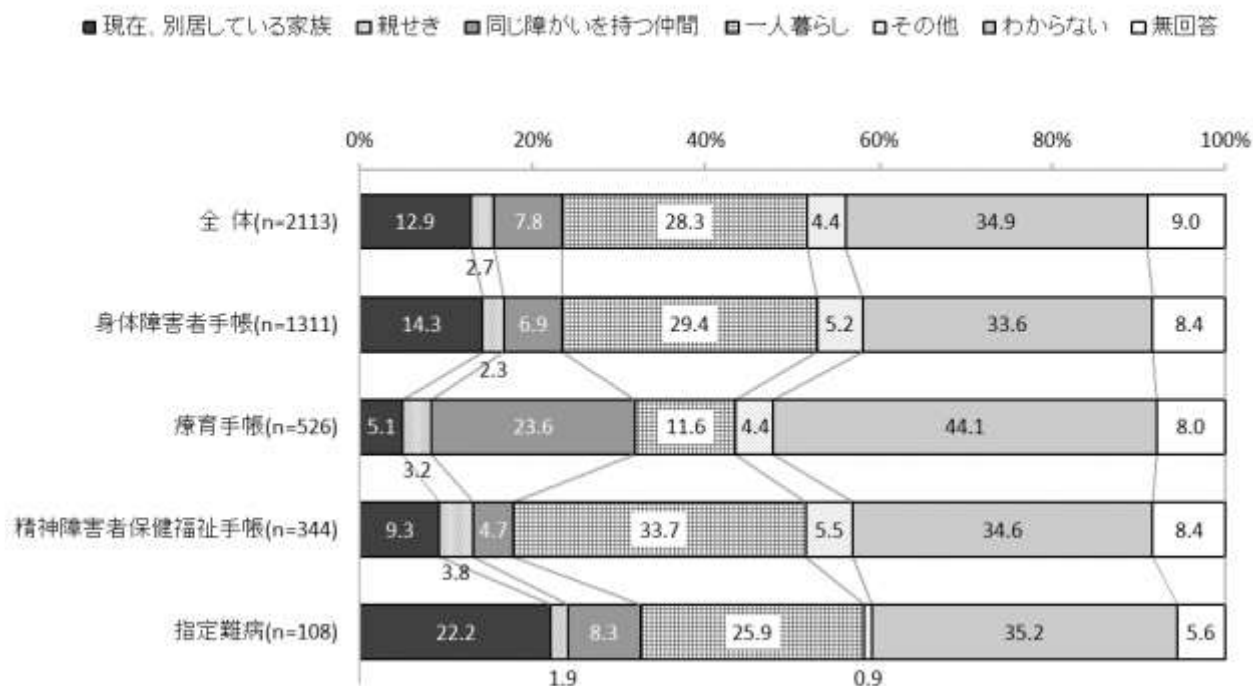
身体障害者手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者、指定難病者は「収入が足りない」が最も高い。療養手帳所有者では「お金の管理がむずかしい」が48.9%と最も高い。



(2) 将来の居住場所についての希望

問 21 もしも、現在、一緒に暮らしている方と、将来、離れなくてはならなくなったときに、誰と、どこで暮らしたいですか。
また、現在、一人暮らしをされている方は、将来、誰と、どこで暮らしたいですか。
(1) 誰と暮らしたいですか(○は1つ)

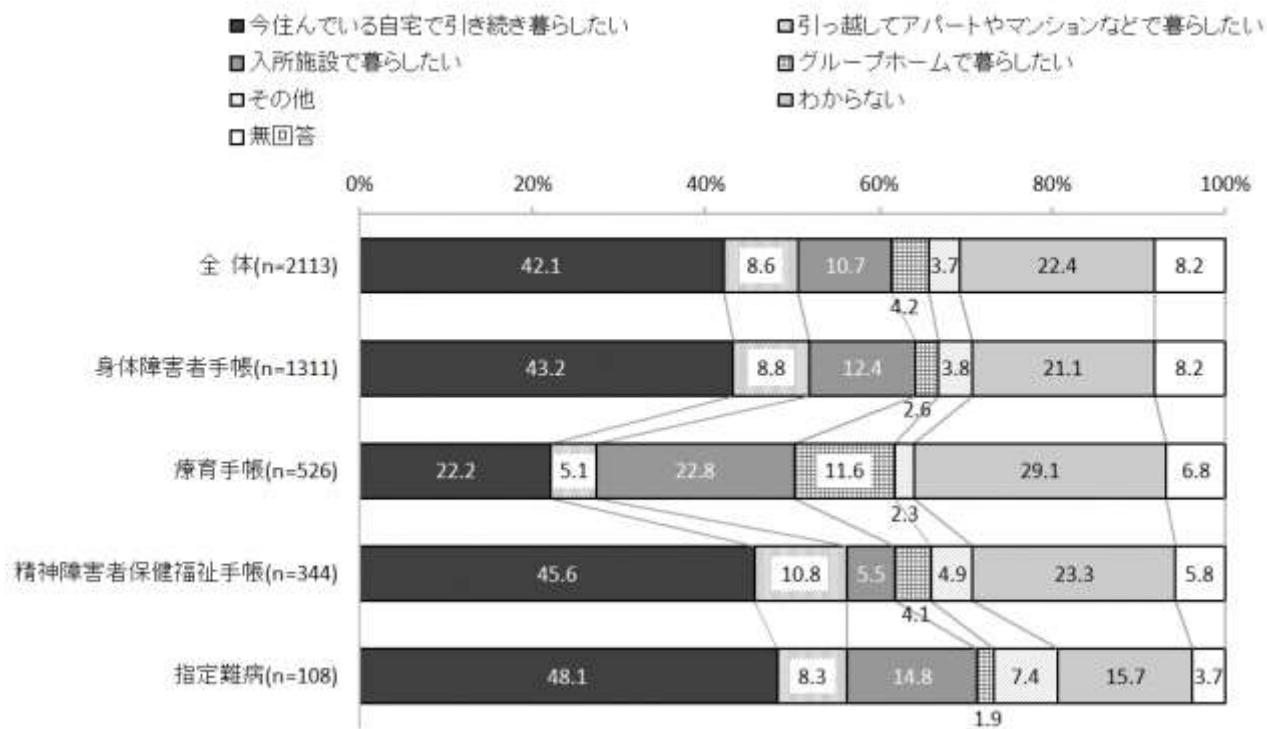
いずれも「わからない」が最も高く、3～4割台を占める。身体障害者手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者、指定難病者では、「一人暮らし」が高く、次いで「現在、別居している家族」と続く。療育手帳所有者では、「同じ障がいを持つ仲間」が高く、次いで「一人暮らし」の順。



問 21 もしも、現在、一緒に暮らしている方と、将来、離れなくてはならなくなったときに、誰と、どこで暮らしたいですか。
 また、現在、一人暮らしをされている方は、将来、誰と、どこで暮らしたいですか。
 (2) どこで暮らしたいですか(○は1つ)

身体障害者手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者、指定難病者では、「今住んでいる自宅」が最も高く、4割台となっている。療育手帳所有者では、「入所施設」と「今住んでいる自宅」がともに2割台となっており、「グループホーム」も1割。

年齢別では「今住んでいる自宅」が年齢を追うごとに高くなっている。

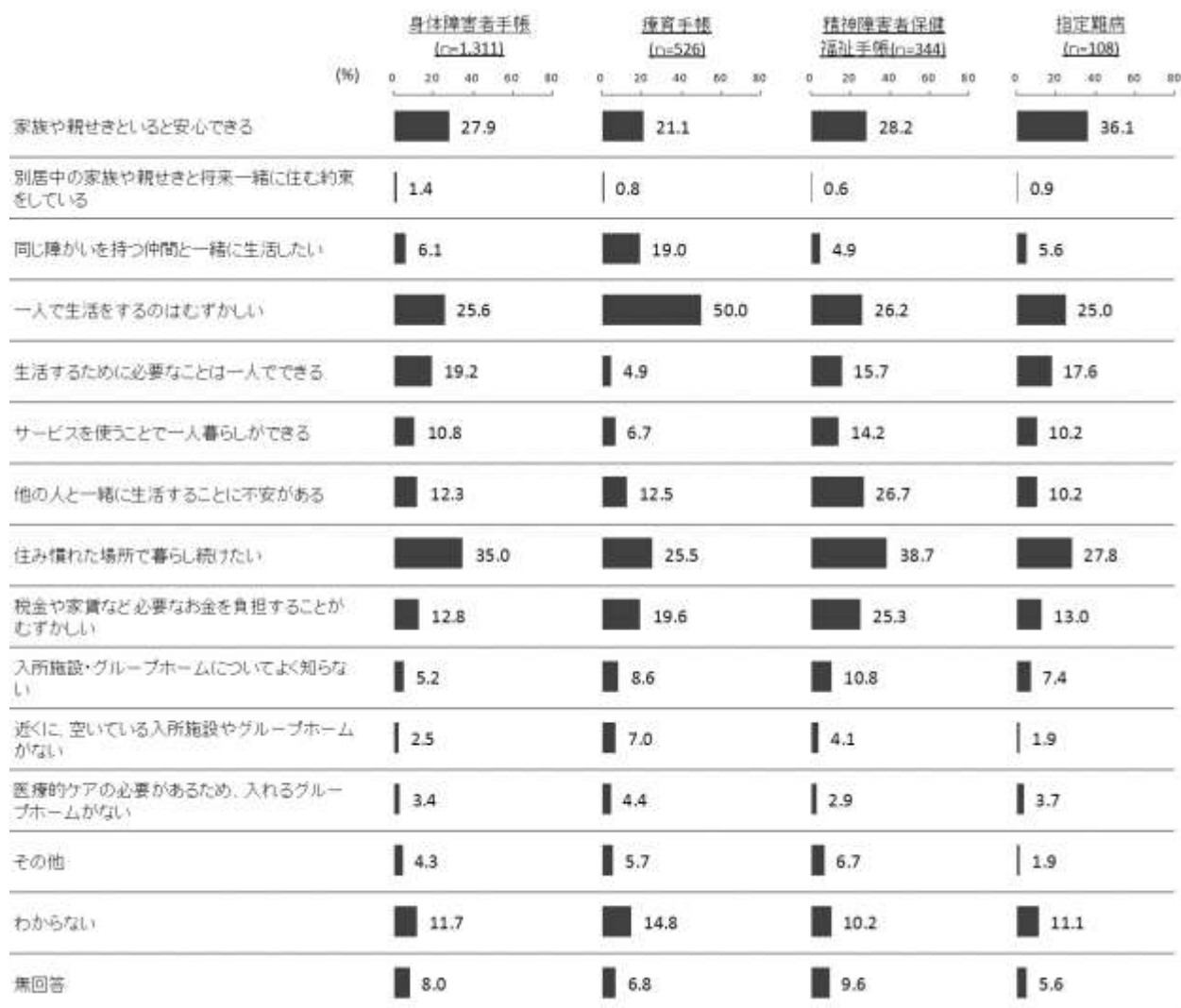


(3) 将来、一緒に暮らしたい人、居住場所を選んだ理由

問 22 問 21 の回答を選んだ理由を教えてください。(〇はいくつでも)

身体障害者手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者で、「住み慣れた場所で暮らし続けたい」が最も高い。指定難病者では「家族や親せきといると安心できる」に次いで「住み慣れた場所で暮らし続けたい」と続く。療育手帳所有者では「一人で生活するのはむずかしい」が最も高く、5割を占めた。

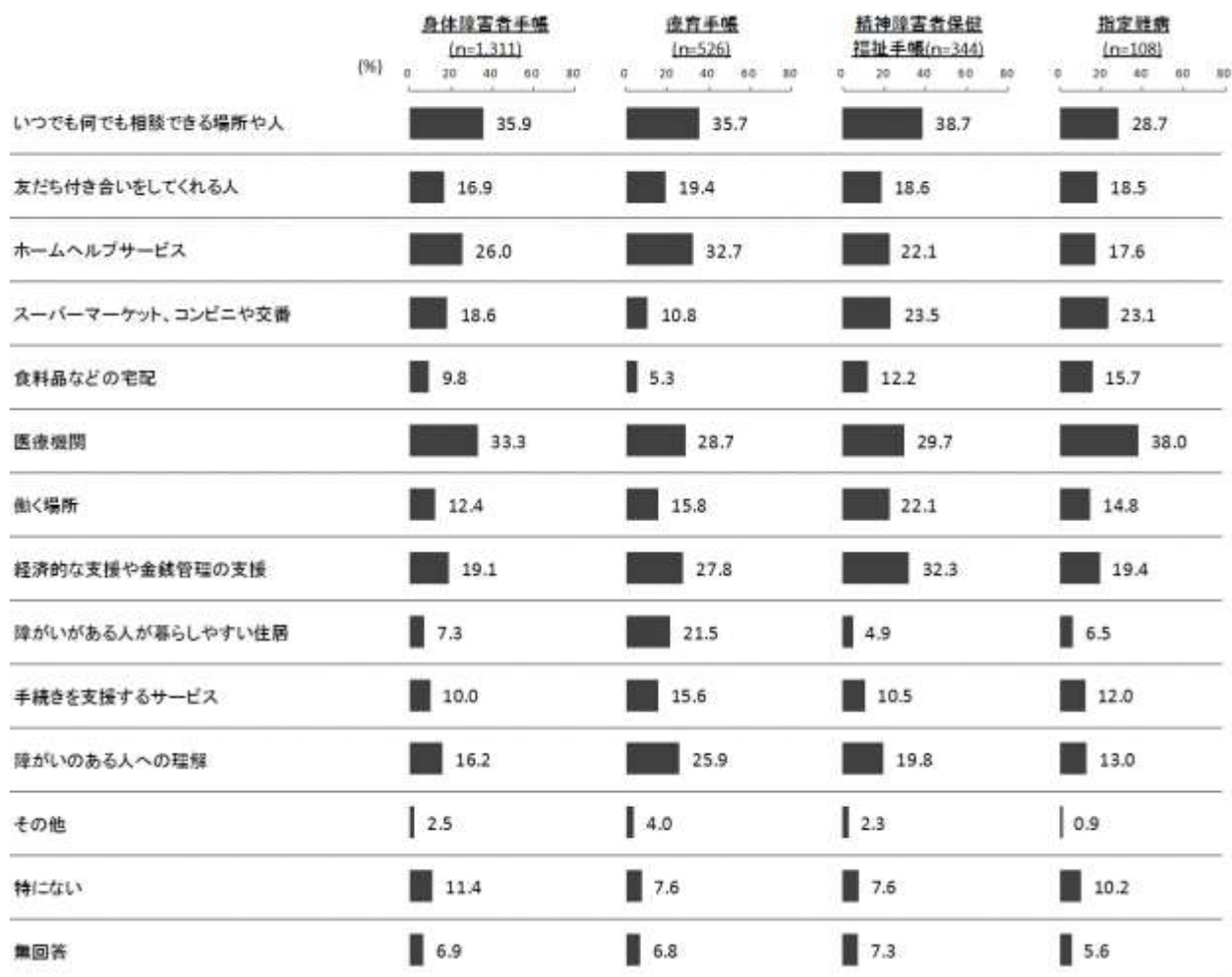
入所施設やグループホームで暮らしたいとの回答理由では、「一人で生活するのはむずかしい」が7割台と特に高かった。



(4) 地域で生活するために必要なこと

問 23 あなたは、お住まいの地域で生活するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

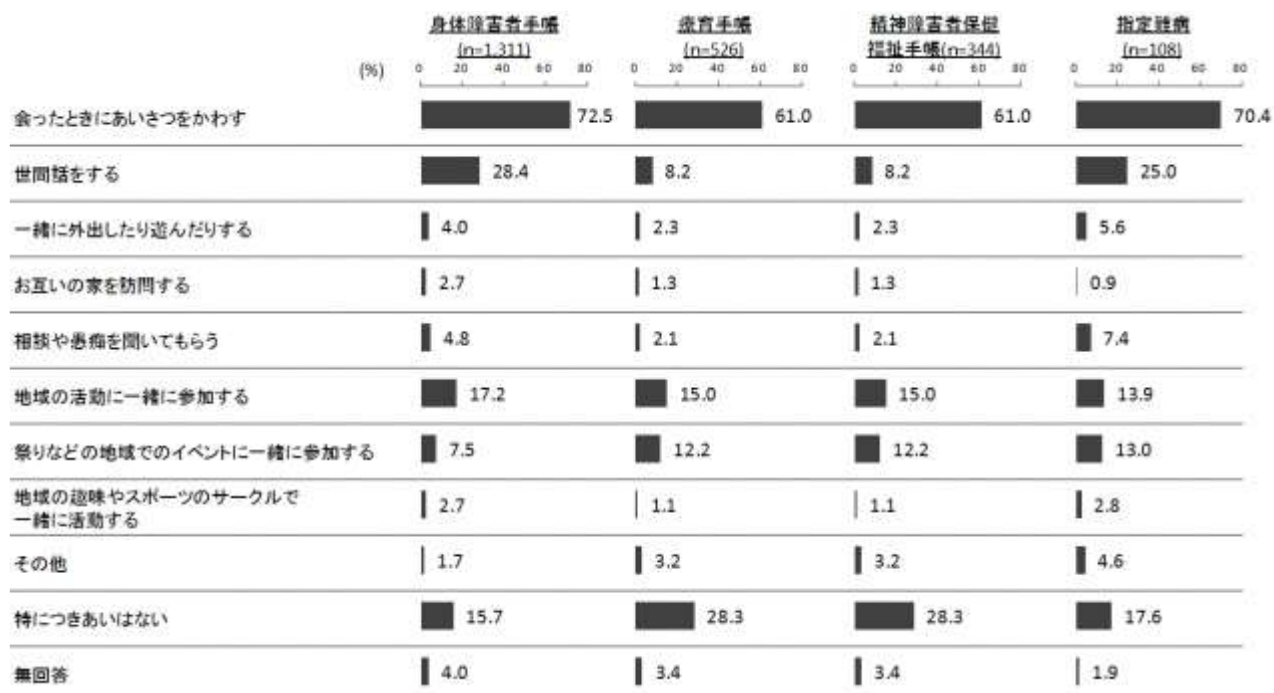
身体障害者手帳所有者、療育手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者で「何でも相談できる場所や人」がトップ項目となっている。そのほか「医療機関」「ホームヘルプサービス」「障がいのある人への理解」「経済的な支援や金銭管理の支援」なども高く、指定難病者では「医療機関」がトップ。



(5) 近隣・地域の人との関わり方について

問 24 あなたは、近隣・地域の人との程度のつきあいをしていますか。(○はいくつでも)

身体障害者手帳所有者、療育手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者、指定難病者のいずれも「会ったときにあいさつをかわす」が6割以上と高くなっている。身体障害者手帳所有者、指定難病者においては、「世間話をする」が2割以上と高いが、療育手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者では1割に満たない。

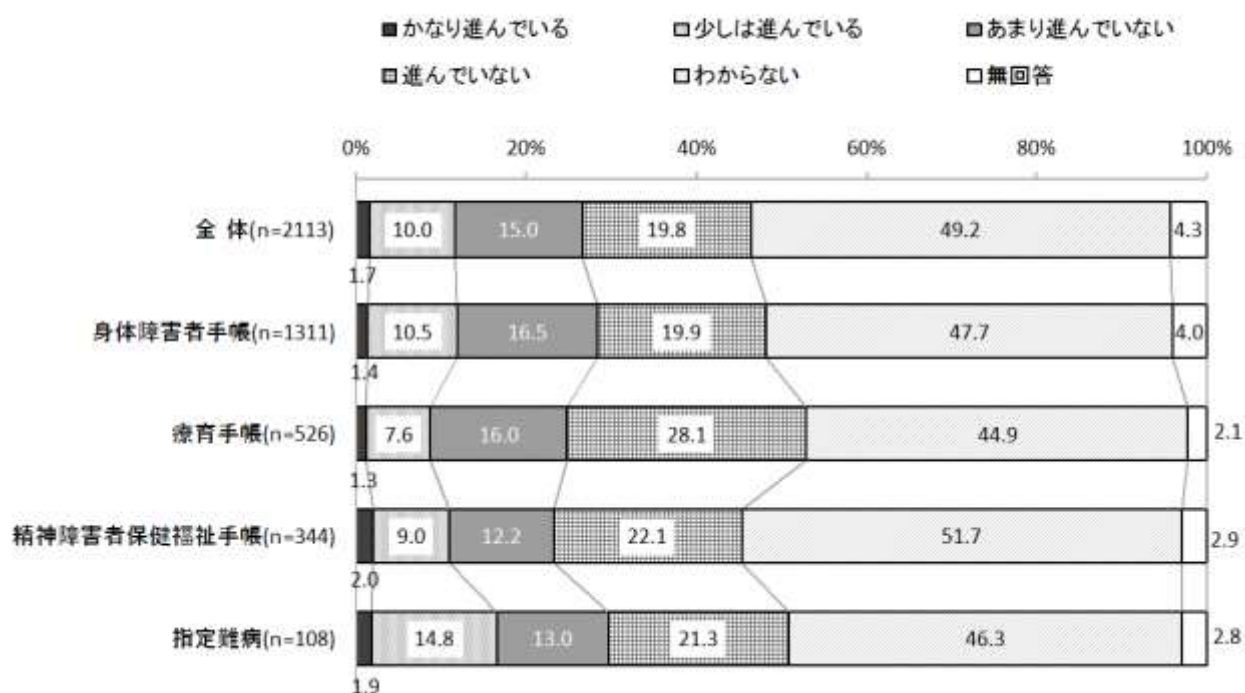


(6) 「地域における共生」の進捗状況

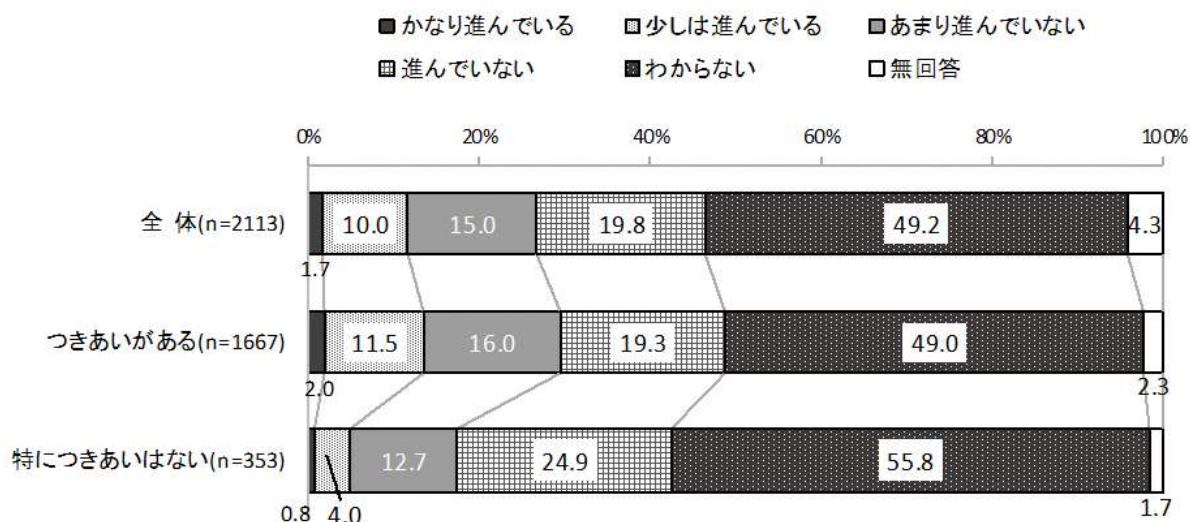
問 25 静岡市は、「地域における共生(障がいのある人もない人も、お互いに大切にし、支え合い、地域で安心して自分らしく暮らすことができること)」ができる都市を目指しています。あなたの身近では、「地域における共生」がどの程度進んでいると思いますか。(〇は1つ)

全体では、「かなり進んでいる」1.7%、「少しは進んでいる」10.0%、「あまり進んでいない」15.0%、「進んでいない」19.8%、「わからない」49.2%で、共生が進んでいると感じている人は少数派となっている。手帳の種類別・指定難病者で大きな差はみられない。

近隣・地域の人との付き合い状況別では、つきあいのない人と比べると、つきあいがある人の方が進んでいると感じている人の割合が高くなっている。

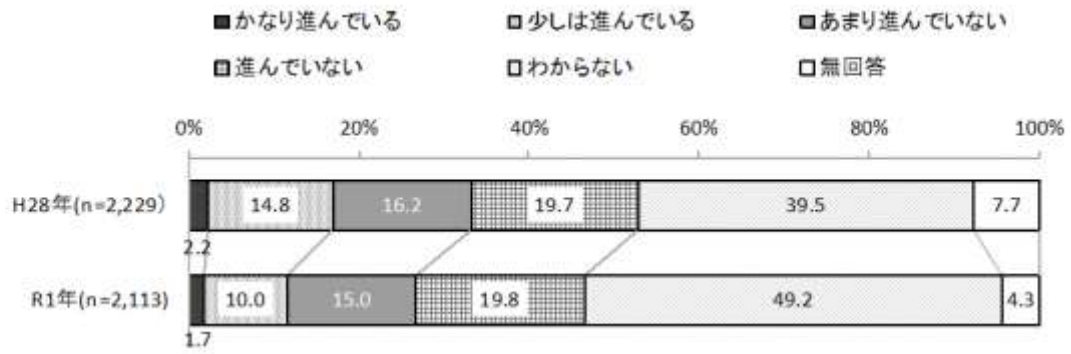


<近隣・地域の人との付き合い状況別>



<経年変化>

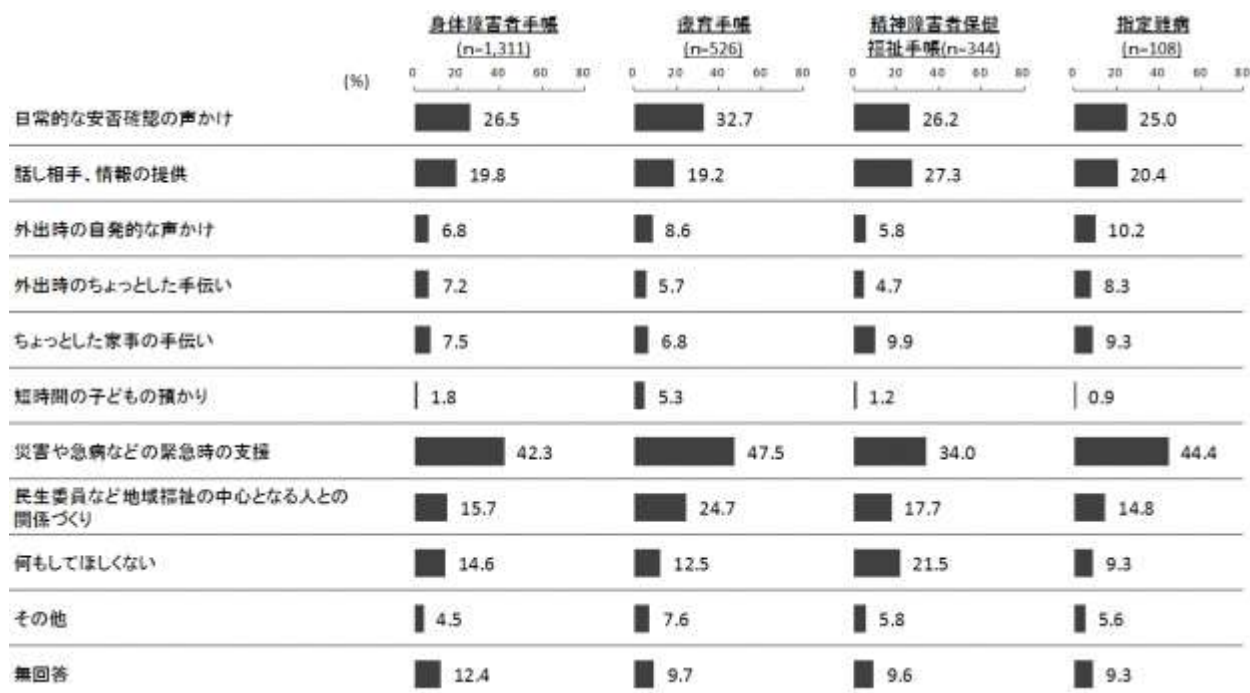
平成 28 年の調査結果と比較すると、「かなり進んでいる」「少しは進んでいる」ともに平成 28 年の数値より低くなっている。



(7) 近隣・地域の人への要望

問 26 あなたは、近所・地域の人にどのようなことを支援してもらいたいですか。(〇はいくつでも)

身体障害者手帳所有者、療育手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者、指定難病者のいずれも「災害や急病などの緊急時の支援」を求める人の割合が最も高い。「日常的な安否確認の声かけ」「話し相手」はそれぞれ2割から3割程度。精神障害者保健福祉手帳所有者では「何もしてほしくない」の割合が21.5%と、他の手帳所有者と比べてやや高くなっている。



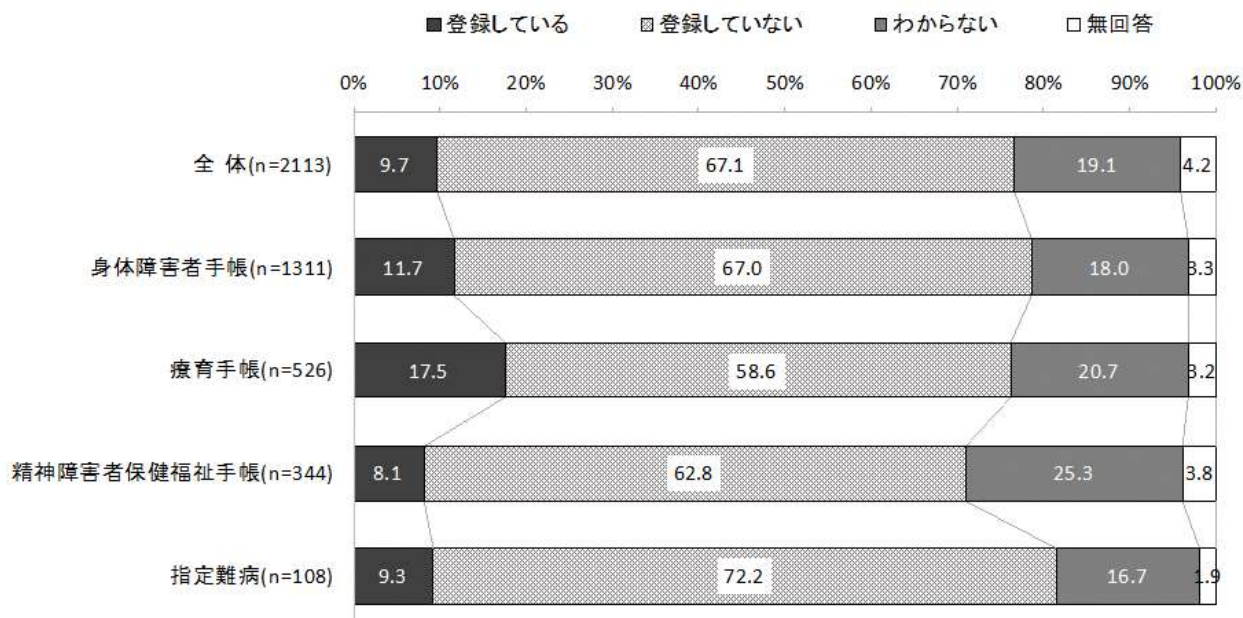
6. 災害対策について

(1) 「静岡市避難行動要支援者避難支援制度」の登録状況

問 27 あなたは、市が実施している「静岡市避難行動要支援者避難支援制度(旧称:静岡市災害時要援護者避難支援制度)(36ページ参照)」に登録していますか。登録していない場合は、その理由もお答えください。

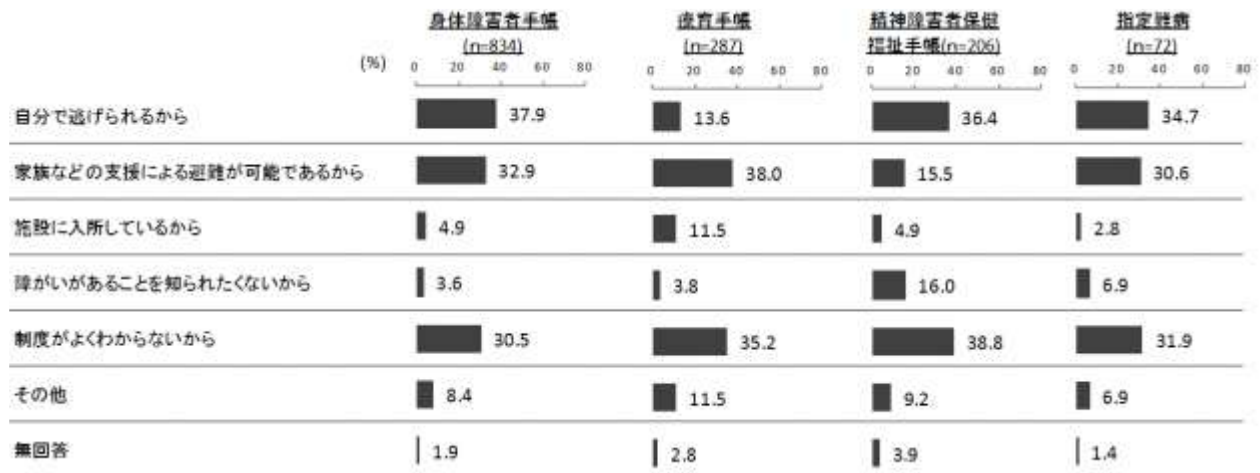
「静岡市避難行動要支援者避難支援制度」への登録者は、身体障害者手帳所有者で 11.7%、療育手帳所有者で 17.5%、精神障害者保健福祉手帳所有者で 8.1%、指定難病者で 9.3%となっている。

<登録状況>



「2 登録していない」の理由(○はいくつでも)

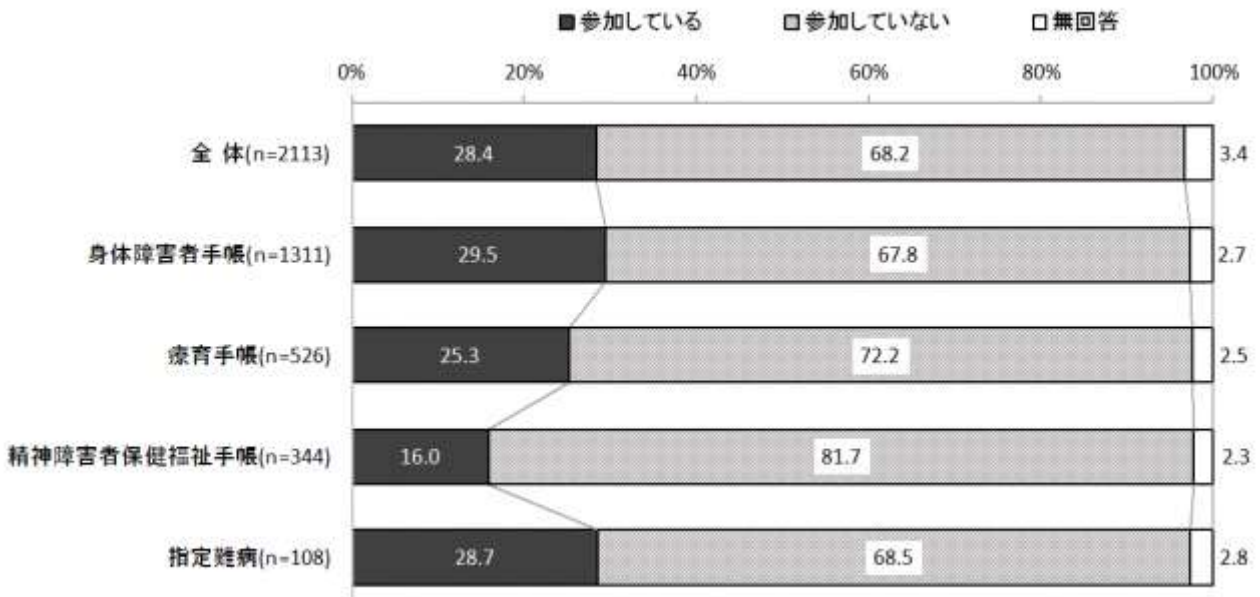
未登録理由としては、「自分で逃げられるから」「家族などの支援による避難が可能であるから」の2項目が高い数値となっているほか、「制度がよくわからない」が高い。



(2) 避難訓練の参加状況

問 28 あなたは、地域で実施している避難訓練に参加していますか。(○は1つ)

身体障害者手帳所有者、療育手帳所有者、指定難病者においては、避難訓練に「参加している」のはおよそ3割となっている。精神障害者保健福祉手帳所有者は、16.0%に留まっている。

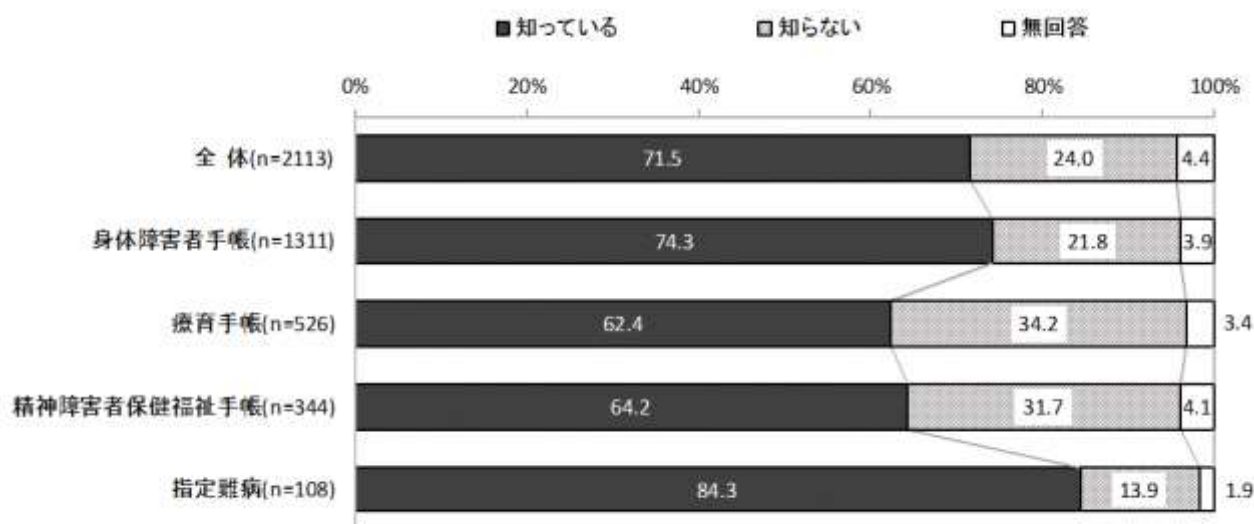


(3) 避難所の認知状況

問 29 災害時の避難所についてそれぞれお答えください。(○は3つまで)

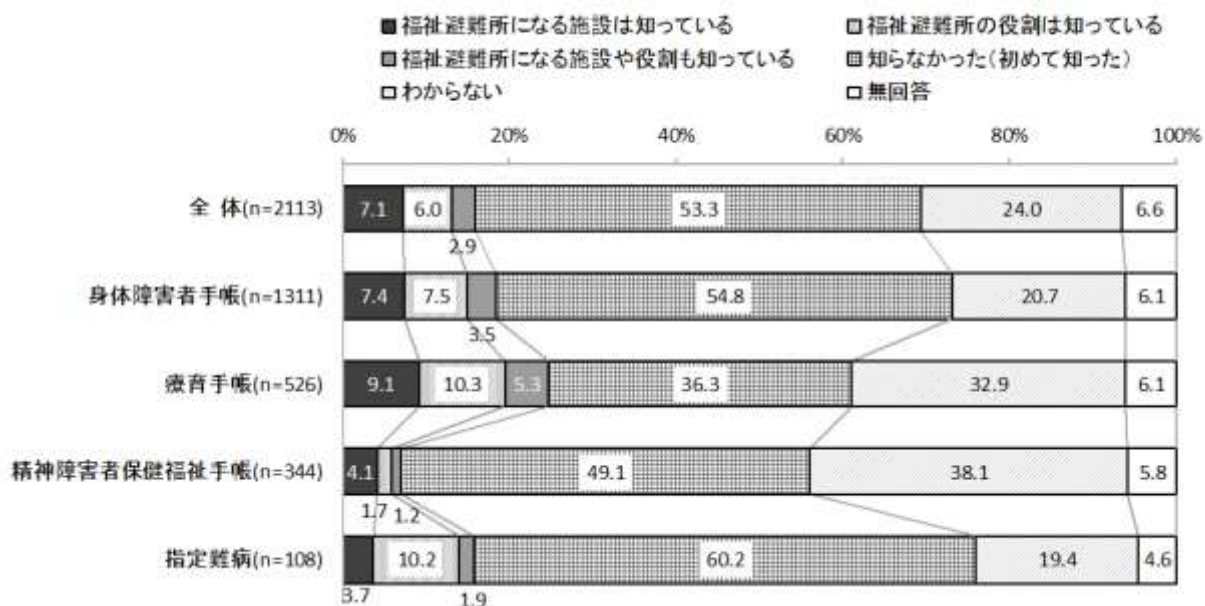
問 29-(1) あなたは自分の住んでいる地域の避難所の場所を知っていますか。(○は1つ)

身体障害者手帳所有者、指定難病者においては、避難所の場所を「知っている」は7～8割。療育手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者は6割となっている。



問 29-(2) 「福祉避難所」がどのようなところか知っていますか。(○は1つ)

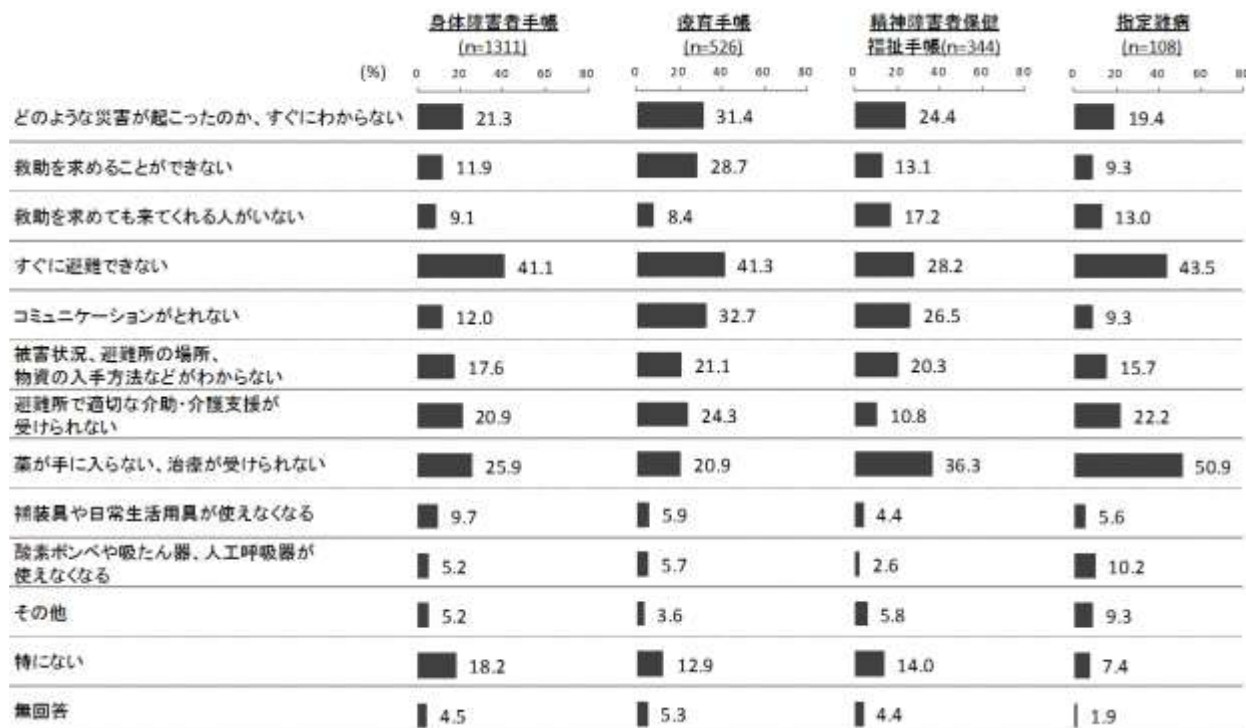
療育手帳所有者は、「福祉避難所になる施設は知っている」が9.1%となり、他と比べて若干高くなっているほか、精神障害者保健福祉手帳所有者は「知っている」が全般的に低い。



(4) 災害時に困ること

問 30 あなたが、地震や台風などの災害のときに特に困ることはありますか。(〇は優先順位の高いものを3つ)

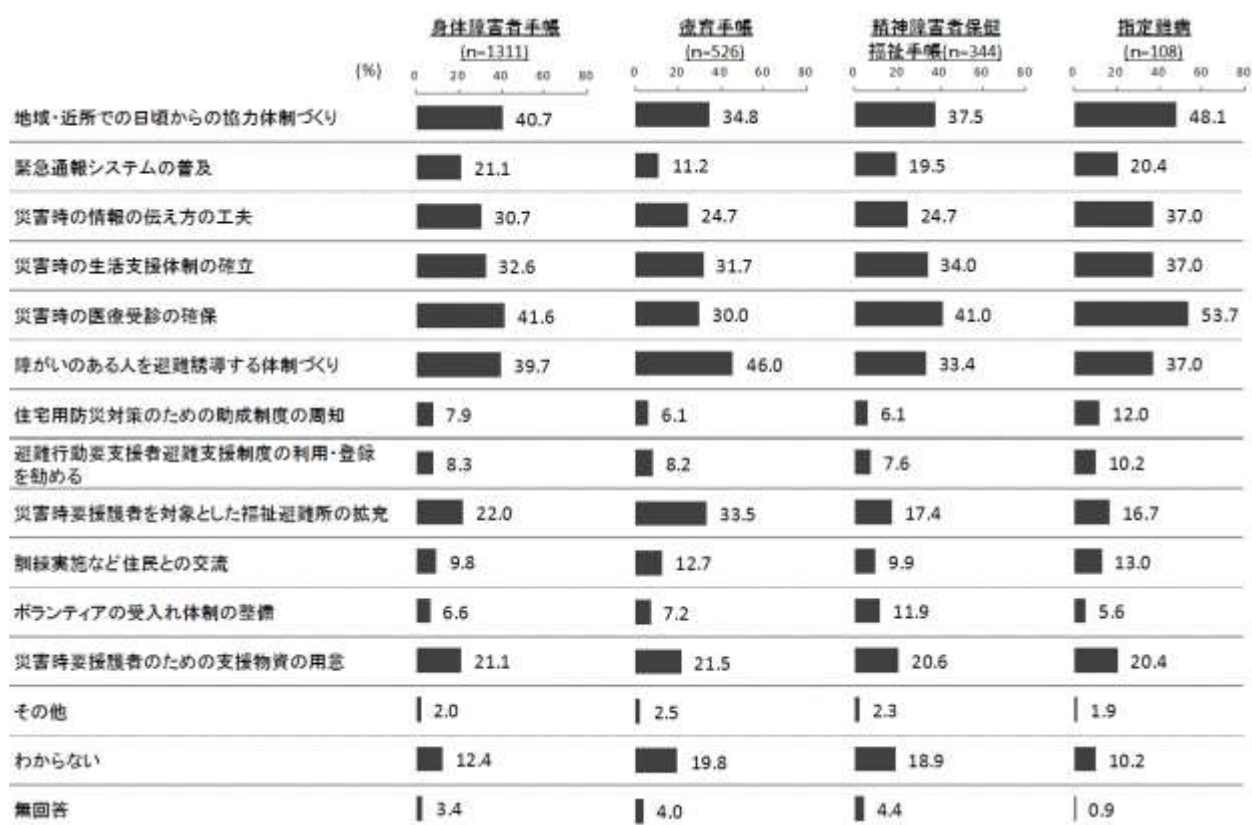
身体障害者手帳所有者、療育手帳所有者は、「すぐに避難できない」が最も高い。精神障害者保健福祉手帳所有者、指定難病者は、「薬が手に入らない、治療が受けられない」が最も高くなっている。



(5) 災害時の備えとして取り組むべきこと

問 31 あなたは、地震や台風などの災害時に備え、高齢者、障がいのある人などの避難行動要支援者に対し、必要な取組はどれだと思いますか。(〇は優先順位の高いものを4つ)

身体障害者手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者、指定難病者は「災害時の医療受診の確保」の期待が最も高い。療育手帳所有者は「障がいのある人を避難誘導する体制づくり」が最も高い。また、手帳の種類にかかわらず「地域・近所での日頃からの協力体制づくり」は上位に挙げられている。



7. 療育・教育について

(2) 療育・教育で困っていること

(保護者の方にお聞きます)

問 33 お子様の療育・教育について困っていることはありますか。(〇は4つまで)

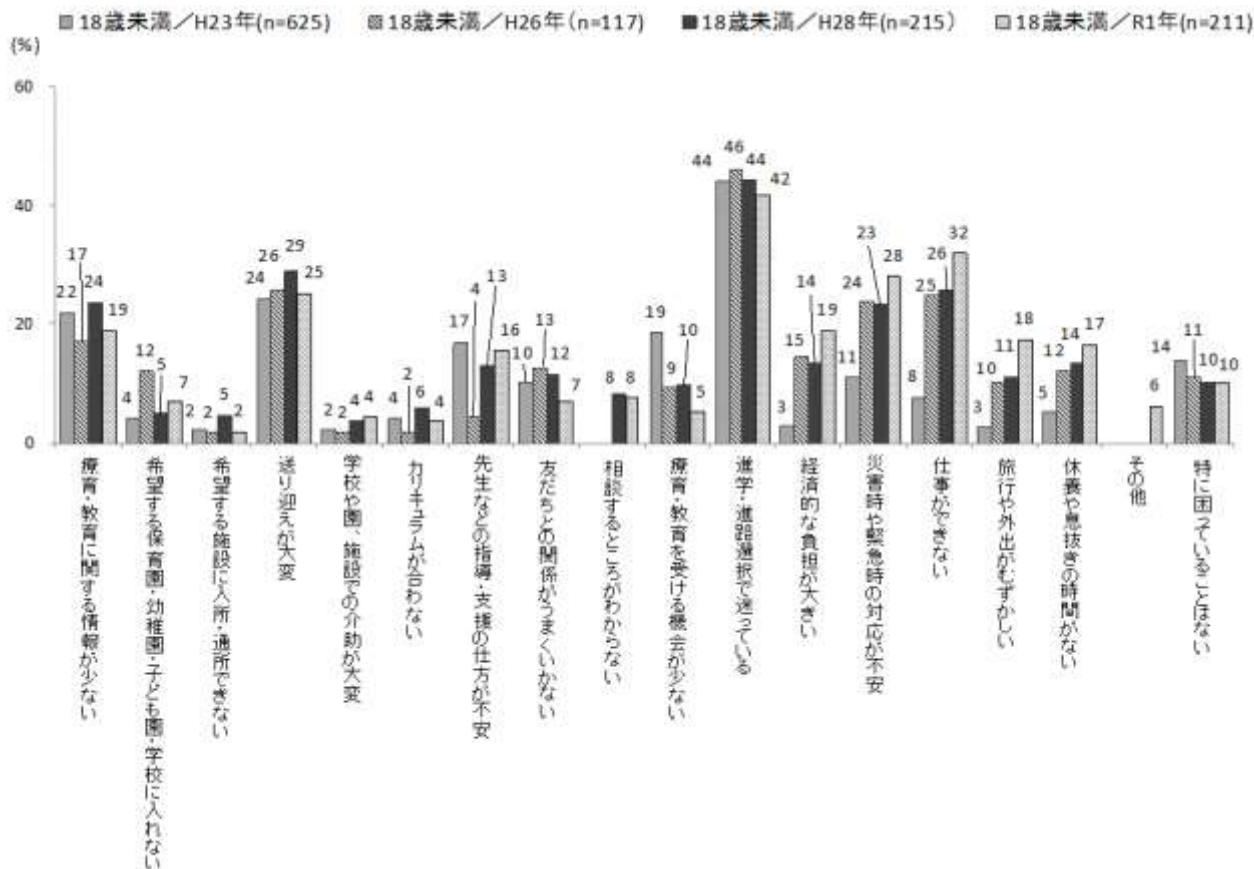
身体障害者手帳所有者、療育手帳所有者、指定難病者は「今後の進学・進路選択で迷っている」、精神障害者保健福祉手帳所有者は「仕事ができない」が最も高くなっている。

※「精神障害者保健福祉手帳所有者」「指定難病」についてはサンプル数が少ないため注意。



<経年変化>

過去の調査結果と比較すると、「進学・進路選択で迷っている」は低下傾向にあり、「仕事ができない」「旅行や外出がむずかしい」「休養や息抜きの時間がない」などは年々高くなっている。



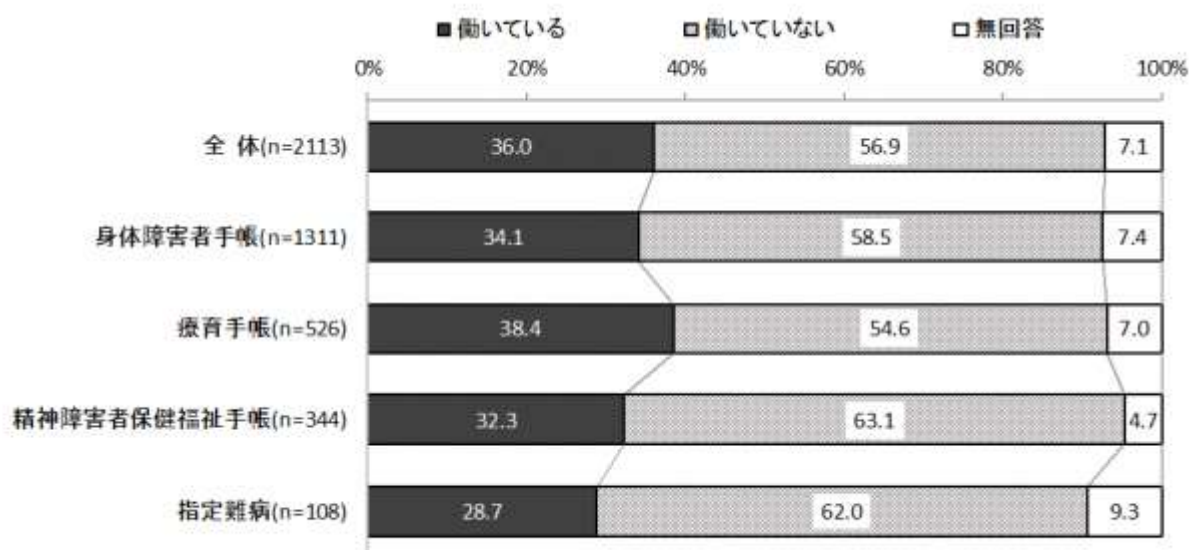
8. 雇用・就労について

(1) 就労の有無

問 34 あなたは現在、働いていますか。通所施設（就労移行支援・就労継続支援A型、就労継続支援B型、生活介護事業所など）での就労も含まれます。（○は1つ）

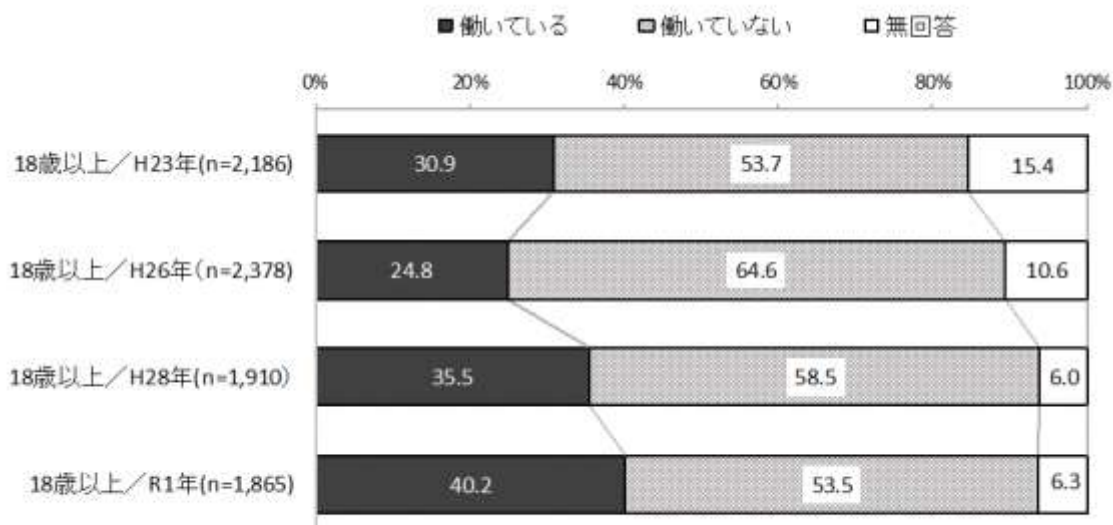
働いている人の割合は、身体障害者手帳所有者は34.1%、療育手帳所有者は38.4%、精神障害者保健福祉手帳所有者は32.3%。指定難病者は28.7%となっている。

受給者証の有無別でみると、自立支援医療受給者証所有者は37.8%、特定医療費受給者証所有者は32.6%となっている。



<経年変化>

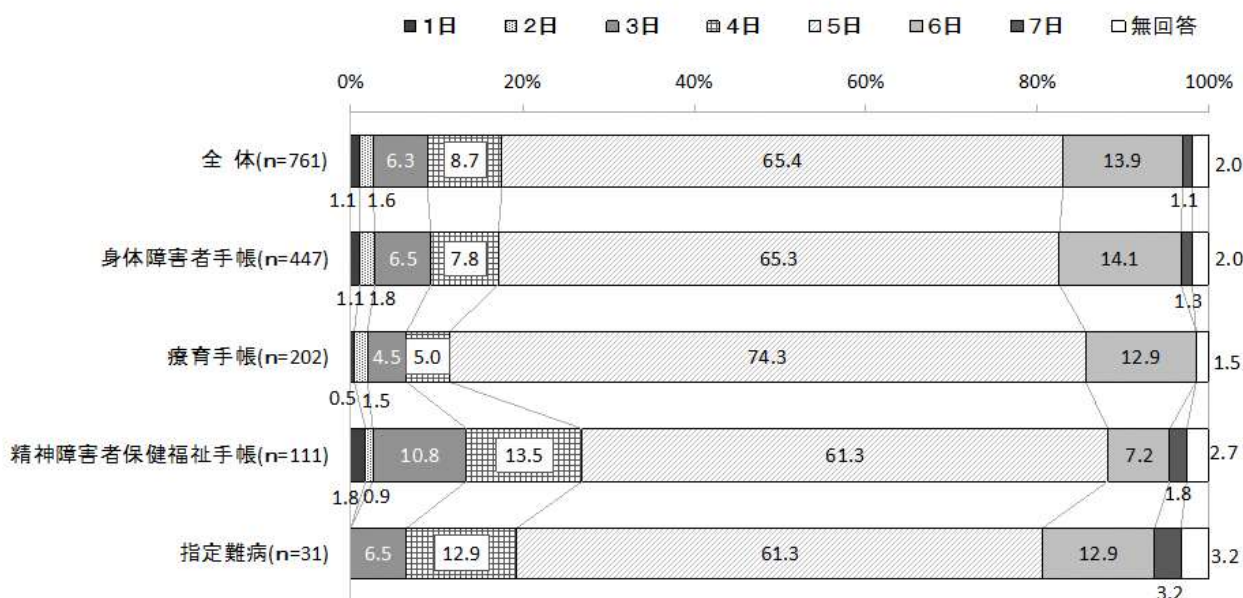
過去の調査結果と比較すると、「働いている」割合は高くなっている。



(2) 週あたりの就労日数

(問 34 で「1 働いている」と答えた方にお伺いします)
問 35 週に何日働いていますか。

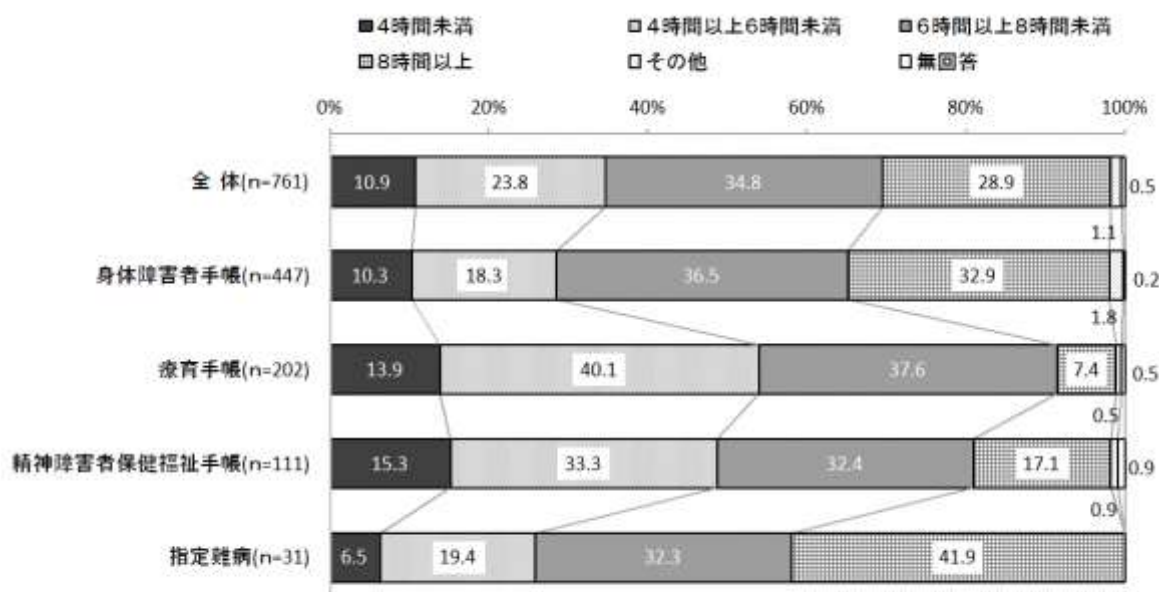
いずれの手帳所有者、指定難病者ともに、「5日」が6割以上を占めている。次いで高いのは精神障害者保健福祉手帳所有者では「4日」、それ以外は「6日」。



(3) 1日あたりの就労時間

(問 34 で「1 働いている」と答えた方にお伺いします)
問 36 1日何時間くらい働いていますか。(○は1つ)

身体障害者手帳所有者では「6時間以上8時間未満」が36.5%と最も高い。次いで「8時間以上」が32.9%となっている。療育手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者では「4時間以上6時間未満」が最も高く、次いで「6時間以上8時間未満」となっており、「8時間以上」働いている人は、身体障害者手帳所有者と比べて低い割合となっている。指定難病者では「8時間以上」が41.9%と高くなっている。

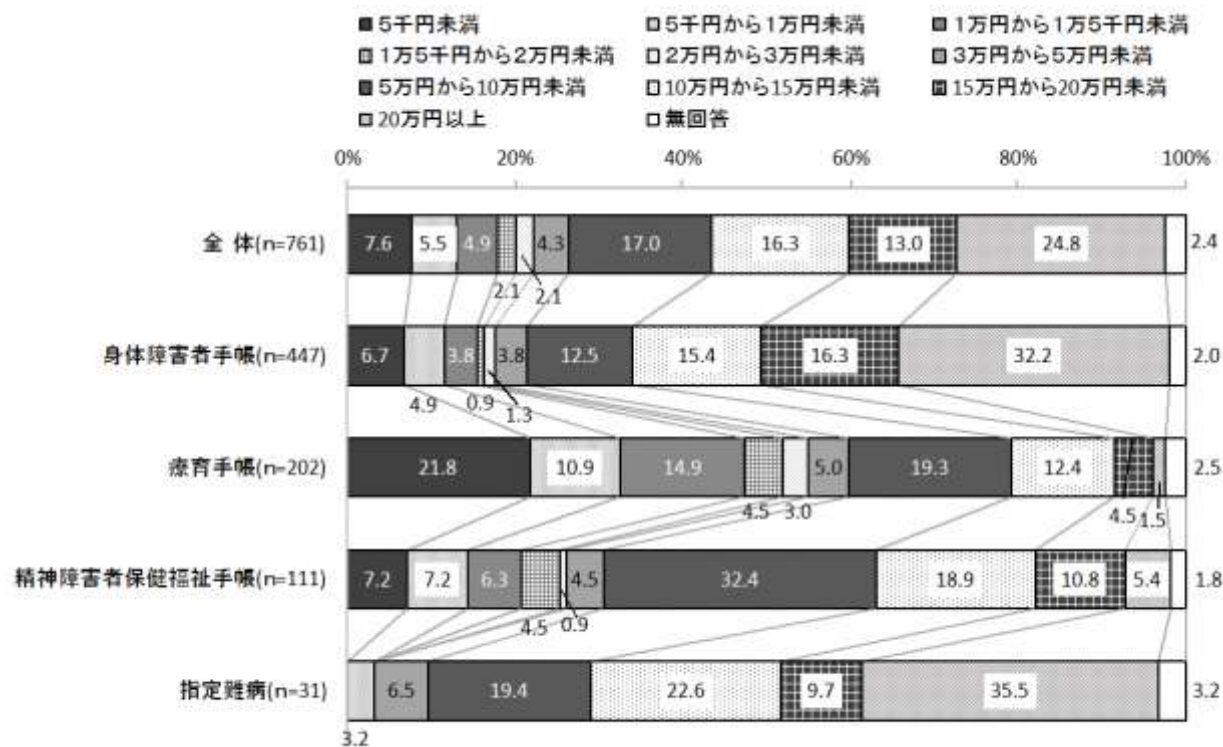


(4) 1 か月あたりの平均給与額

(問 34 で「1 働いている」と答えた方にお伺いします)

問 37 1 か月の平均給与・賃金・工賃はどのくらいですか。(○は1つ)

身体障害者手帳所有者、指定難病者は、「20 万円以上」が最も高い。療育手帳所有者は 1 万 5 千円未満が 5 割弱を占める。精神障害者保健福祉手帳所有者は、「5 万円から 10 万円未満」が 32.4% と最も高くなっている。就労場所別でみると、通所施設においては 1 万 5 千円未満が 6 割を占める。

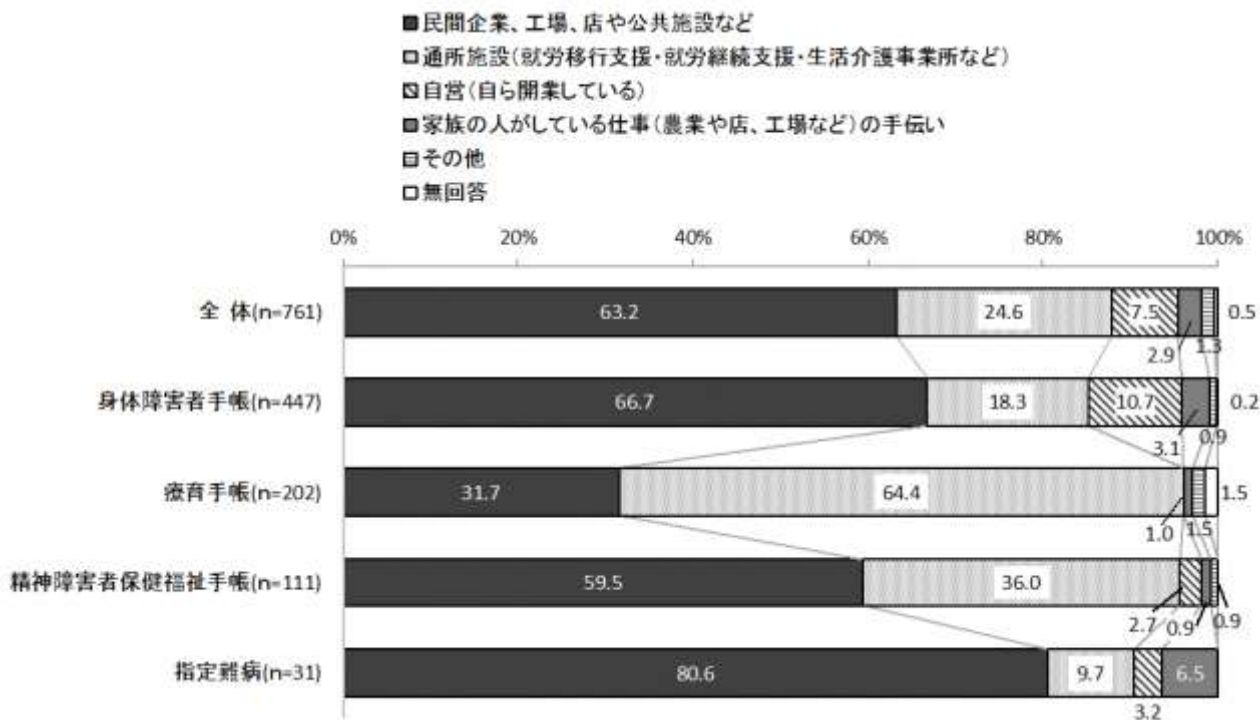


(5) 就労場所

(問 34 で「1 働いている」と答えた方にお伺いします)

問 38 どんなところで働いていますか。(○は1つ)

「民間企業、工場、店や役所など」は身体障害者手帳所有者が 66.7%、指定難病者が 80.6%と高くなっている。精神障害者保健福祉手帳所有者では「民間企業、工場、店や役所など」が 59.5%、「通所施設」が 36.0%となっている。療育手帳所有者では、「通所施設」が 64.4%と高くなっている。発達障がいの診断を「受けている」人は、「通所施設」が 58.4%と特に高い。

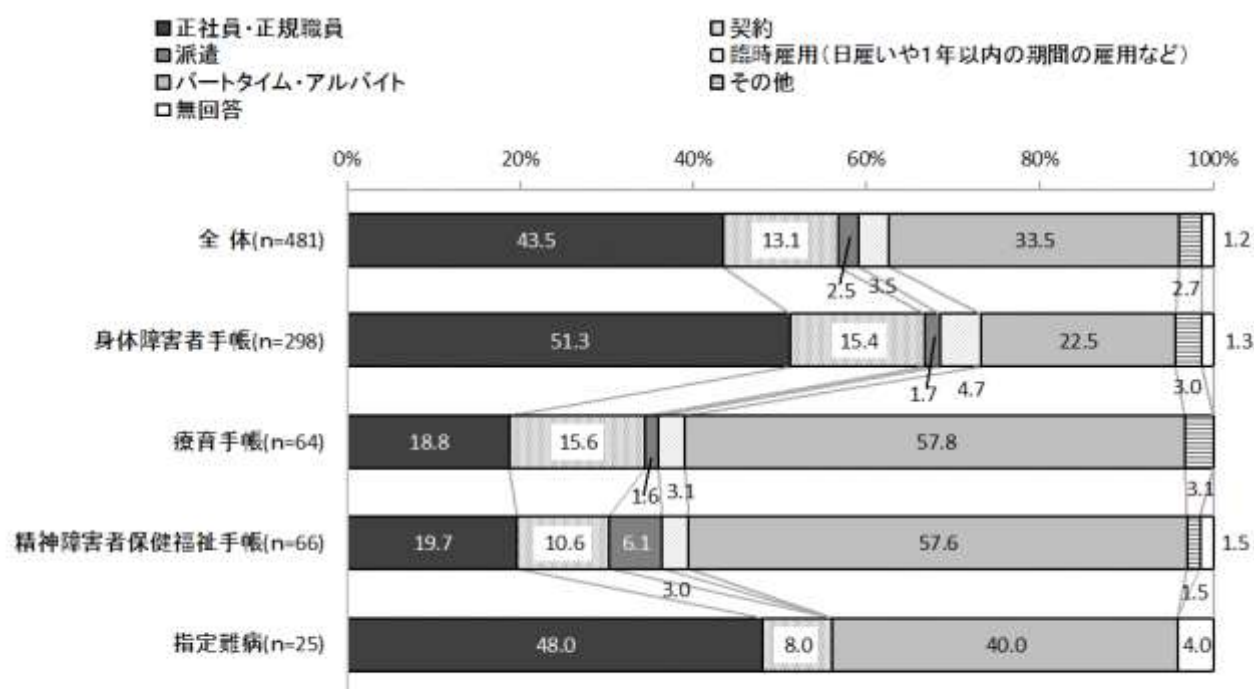


(問34で「1 働いている」と答えた方にお伺いします、
 問38で「1 民間企業、工場、店や公共施設など」と答えた方にお伺いします)
 付問① どのような雇用形態で働いていますか。(〇は1つ)

身体障害者手帳所有者では「正社員・正規職員」が51.3%と最も高く、次いで「パートタイム・アルバイト」が22.5%。療育手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者は「パートタイム・アルバイト」が6割、「正社員・正規職員」2割となっている。

高次脳機能障害の発達診断有無別では、「診断されている」人は「正社員・正規職員」が23.1%と低い。

発達障がい診断有無別では、「受けている」人は「正社員・正規職員」が16.2%にとどまる。

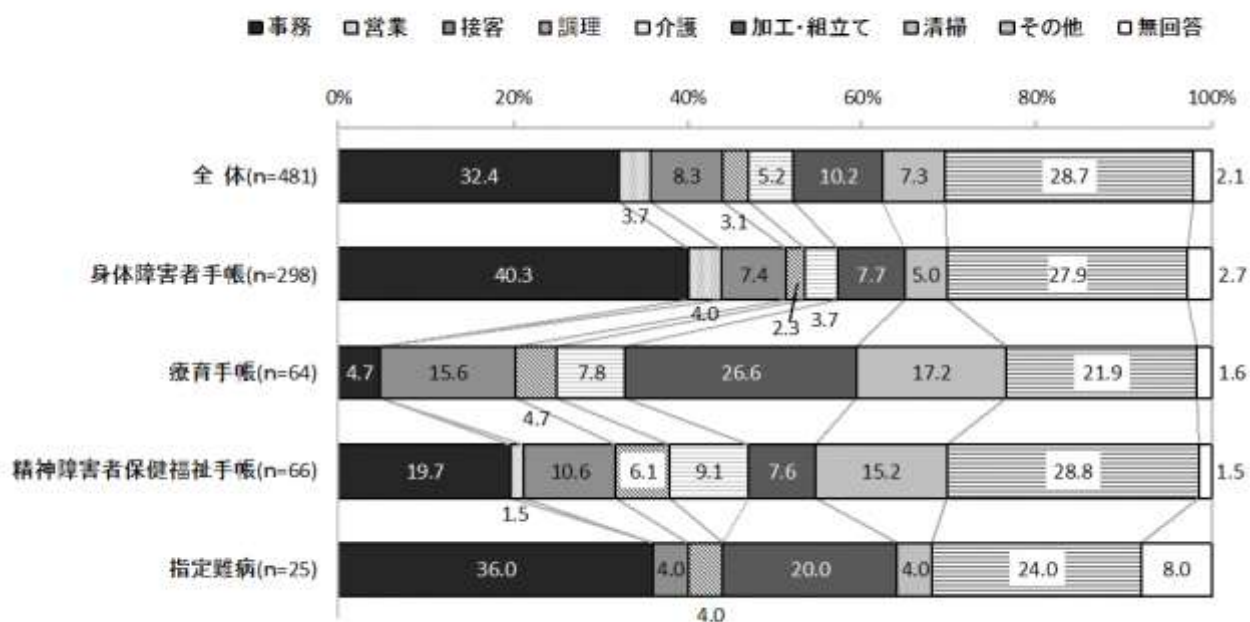


(問 34 で「1 働いている」と答えた方にお伺いします、
 問 38 で「1 民間企業、工場、店や公共施設など」と答えた方にお伺いします)
 付問② どのような業務内容ですか。(○は1つ)

身体障害者手帳所有者、指定難病者では「事務」が4割と高い。療育手帳所有者では「加工・組立て」が26.6%と高い。精神障害者保健福祉手帳所有者では「事務」が19.7%と高い。

高次脳機能障害と「診断されている」人は、「加工・組立て」が23.1%と高く、「事務」は全体よりも低くなっている。

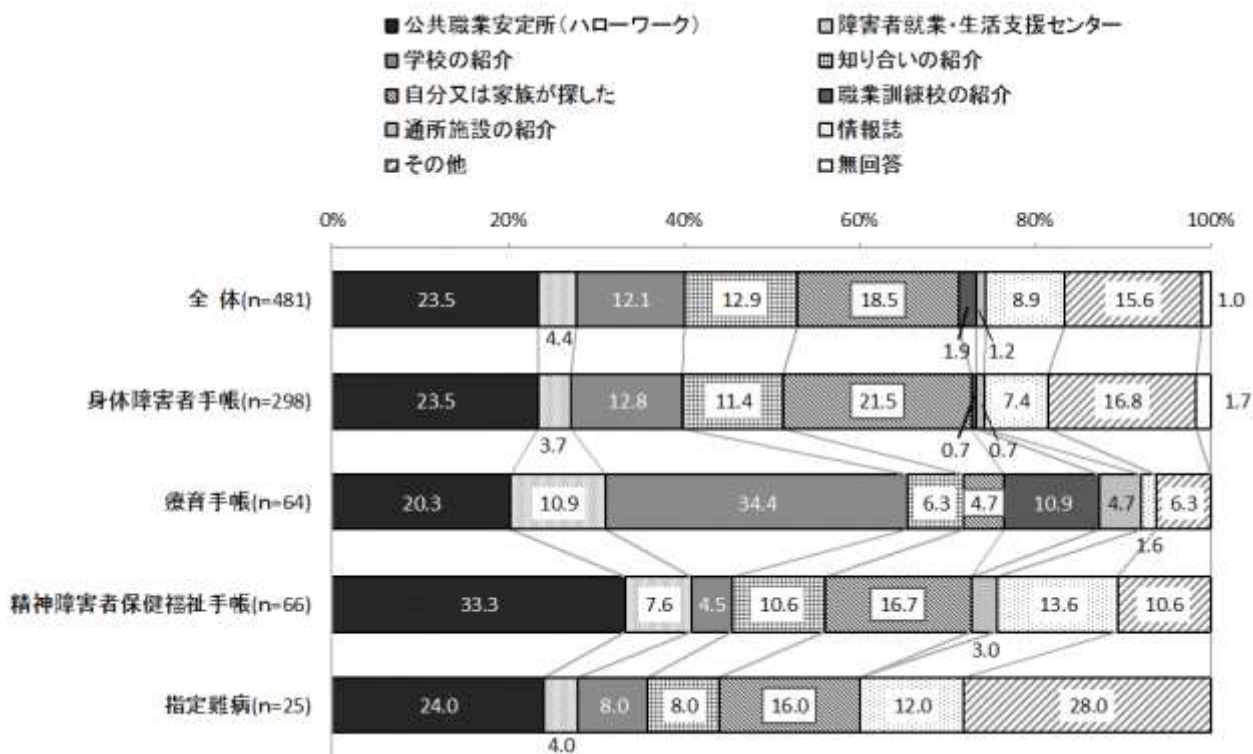
発達障がい診断を「受けている」人は、「加工・組立て」が21.6%と高く、「事務」が8.1%と低くなっている。



(問 34 で「1 働いている」と答えた方にお伺いします、
 問 38 で「1 民間企業、工場、店や公共施設など」と答えた方にお伺いします)
 付問③ 今の仕事は、どのような方法で見つけましたか。(〇は1つ)

身体障害者手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者、指定難病者は「公共職業安定所（ハローワーク）」が最も高くなっている。療育手帳所有者は「学校の紹介」が34.4%と高い。

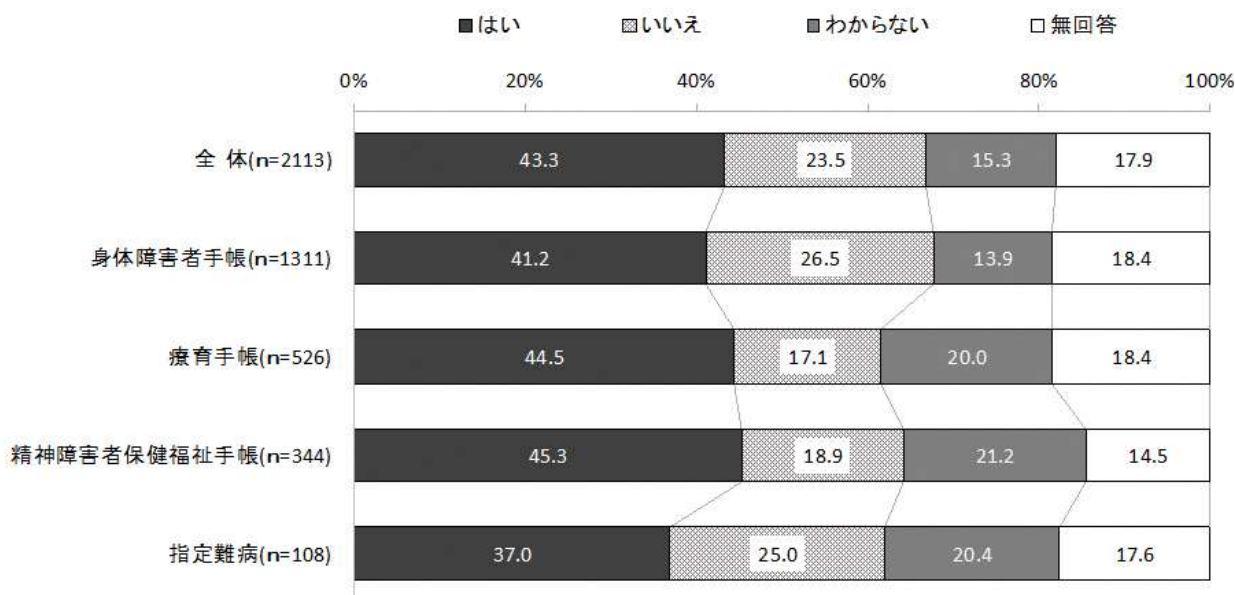
発達障がい診断の有無別でみると、「受けている」人は「学校の紹介」が27.0%と高くなっている。



(6) 今後の就労意向

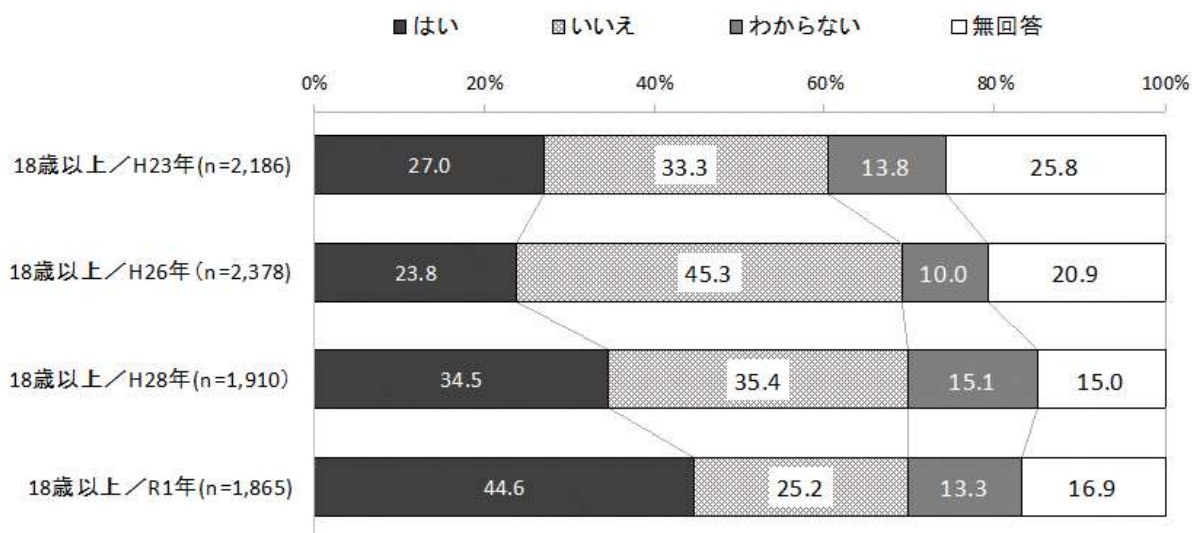
問 39 今後又は引き続き、働きたいと思いますか。(○は1つ)

引き続き就労を希望する人は、身体障害者手帳所有者で 41.2%、療育手帳所有者で 44.5%、精神障害者保健福祉手帳所有者で 45.3%、指定難病者で 37.0%となっている。



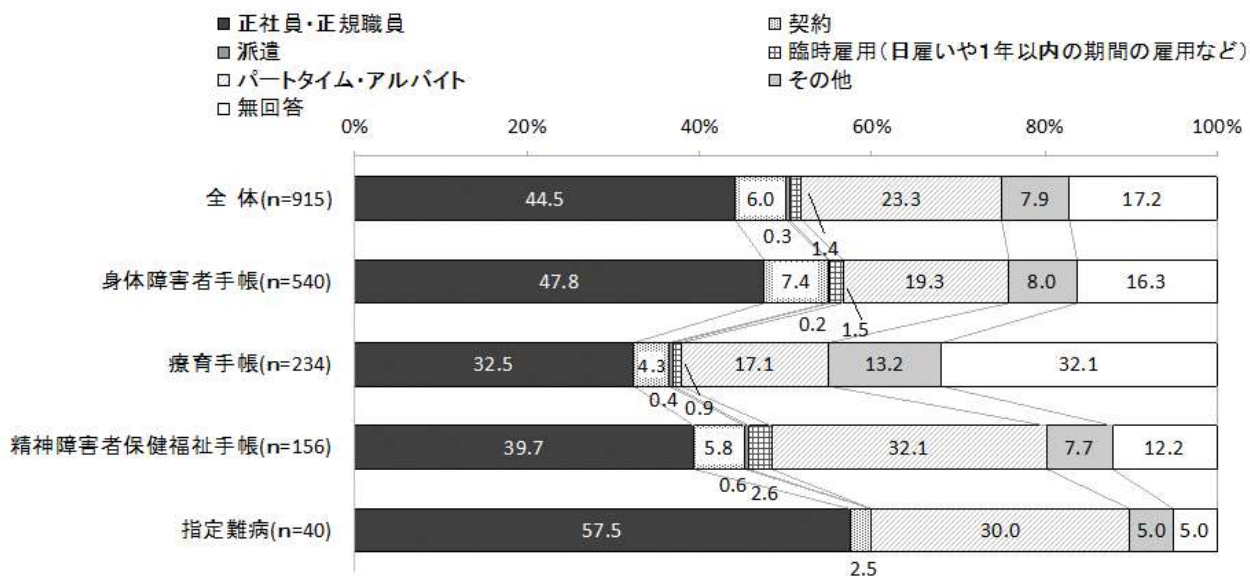
<経年変化>

過去の調査結果と比較すると、引き続き就労を希望する人の割合が 44.6%で最も高くなっている。



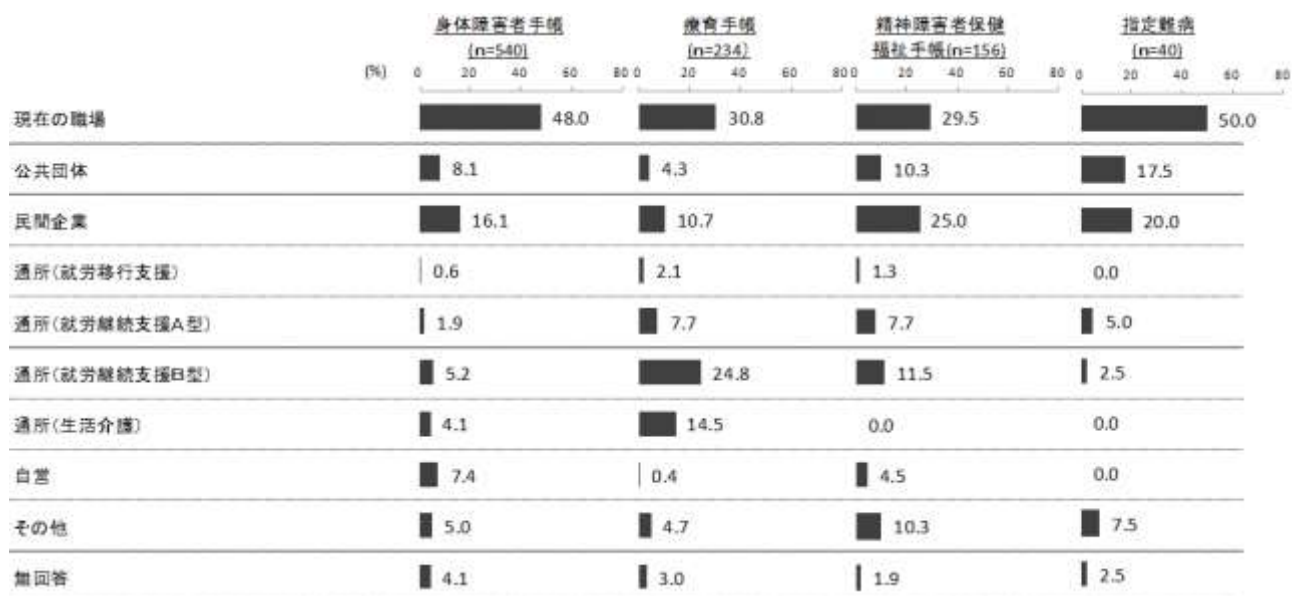
(問 39 で「1 はい」と答えた方にお伺いします)
付問① 今後どのような雇用形態で働きたいですか。(〇は1つ)

身体障害者手帳所有者、療育手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者、指定難病者のいずれも「正社員・正規職員」が最も高く、3～6割を占めている。次いで「パートタイム・アルバイト」が高くなっている。



(問 39 で「1 はい」と答えた方にお伺いします)
付問② 今後、どのようなところで働きたいですか。(〇は1つ)

身体障害者手帳所有者、療育手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者、指定難病者のいずれも「現在の職場」が最も高く、3～5割を占めている。療育手帳所有者では「通所(就労継続支援B型)」も高い。



(7) 働くために必要な環境整備

問 40 あなたは、障がいのある人が働くためには、主にどのような環境が整っていることが大切だと思いますか。
(○は4つまで)

身体障害者手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者、指定難病者は「働く時間や日数を調整できること」が4割以上と最も高く、「障がい程度にあった仕事であること」「雇う側や同僚が障害を理解してくれること」が上位に挙がっている。療育手帳所有者では「障がいの程度にあった仕事であること」47.0%、「雇う側や同僚が障がいを理解してくれること」43.7%の順。



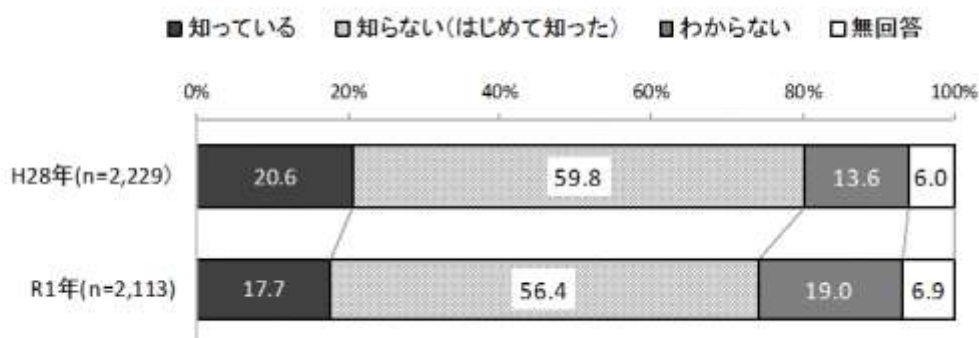
9. 権利擁護について

(1) 「障害者差別解消法」の認知状況

問 41 あなたは、平成 28 年 4 月 1 日から施行された「障害者差別解消法」を知っていますか。(○は 1 つ)

<経年変化>

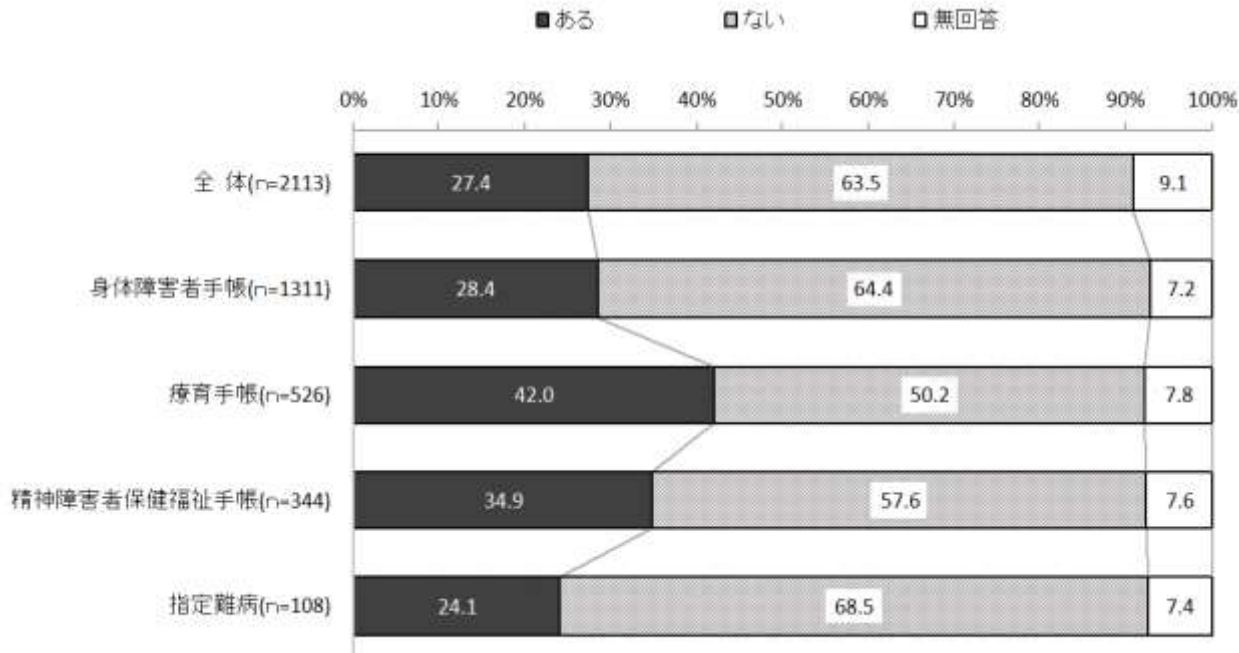
平成 28 年の調査結果と比較すると、認知度がやや低下している。



(2) 差別を受けた経験

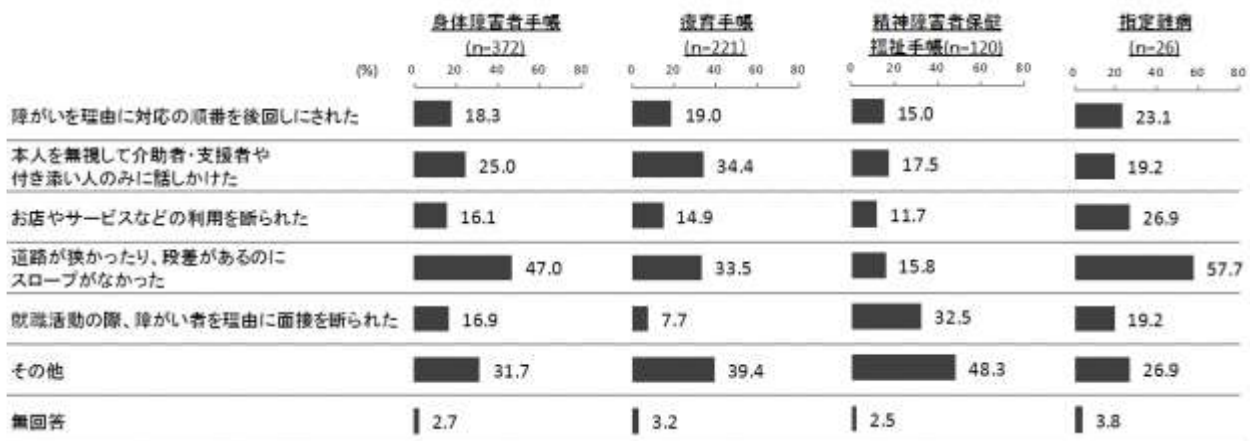
問 42 あなたは、障がいを理由に差別を受けたり、いやな思いなどをしたことがありますか。(○は 1 つ)

差別を受けた経験がある人は、身体障害者手帳所有者は 28.4%、療育手帳所有者は 42.0%、精神障害者保健福祉手帳所有者は 34.9%、指定難病者は 24.1%となっている。



(問 42 で「1 ある」と答えた方にお伺いします)
 付問① どのような差別を受けたり、いやな思いをしましたか。(〇はいくつでも)

「道路が狭かったり、段差があるのにスロープがなかった」は、身体障害者手帳所有者で 47.0%、指定難病者で 57.7%と最も高い。療育手帳所有者では「本人を無視して介助者・支援者や付き添い人のみに話しかけた」が 34.4%となり、「道路が狭かったり、段差があるのにスロープがなかった」33.5%と並んで高くなっている。精神障害者保健福祉手帳所有者は、「就職活動の際、障がい者を理由に面接を断られた」が 32.5%と高くなっている。



(その他)

- ・ 職場での虐待、いじめ、パワハラ(15 件)
- ・ じろじろ見られる(9 件)
- ・ 笑われる(3 件)
- ・ 変な目で見られた(3 件)
- ・ パワハラ(2 件)
- ・ 手帳が無い為(2 件)
- ・ 障害を理由に入社を断られた(2 件)
- ・ 病気を理解されない(2 件)
- ・ ちら見
- ・ どうこうという訳ではないが、なくとなく感じた
- ・ モラハラ
- ・ リストラ
- ・ 街に出た時、その場で相談が出来ない
- ・ 見た目・いじめ
- ・ うわさ、暴言
- ・ わからないことを言われ、パニックになった
- ・ 外出先で暴言をうける
- ・ 吸引や機械の音やアラームがうるさい、迷惑と言われた
- ・ 勤務していた時に、当日体調が悪く休みたいと連絡したら、翌日怠け休みと言われた
- ・ 勤務している事が不思議と言われた
- ・ 近所の人にゴミをだすなといわれたり、道を通るなといわれ車でひき殺されそうになった
- ・ 健常者と一緒の立場にみられたいだろうとおしつけてきた
- ・ 嫌な事を言われた
- ・ 見えなくてぶつかった人に 30 分以上怒鳴られた
- ・ 姑に、精神障害を全然理解してもらえない。「努力が足りない」とか、「頑張りが足りない」などと言われる。未だに理解してもらえない。一生無理だと思ふ
- ・ 差別的な発言をされている
- ・ 周囲にからかわれたり、バカにされた
- ・ 障害特性を理解しようとしぬい職員からの言葉での攻撃
- ・ 親が子どもに見せつけ差別的な言動を発した

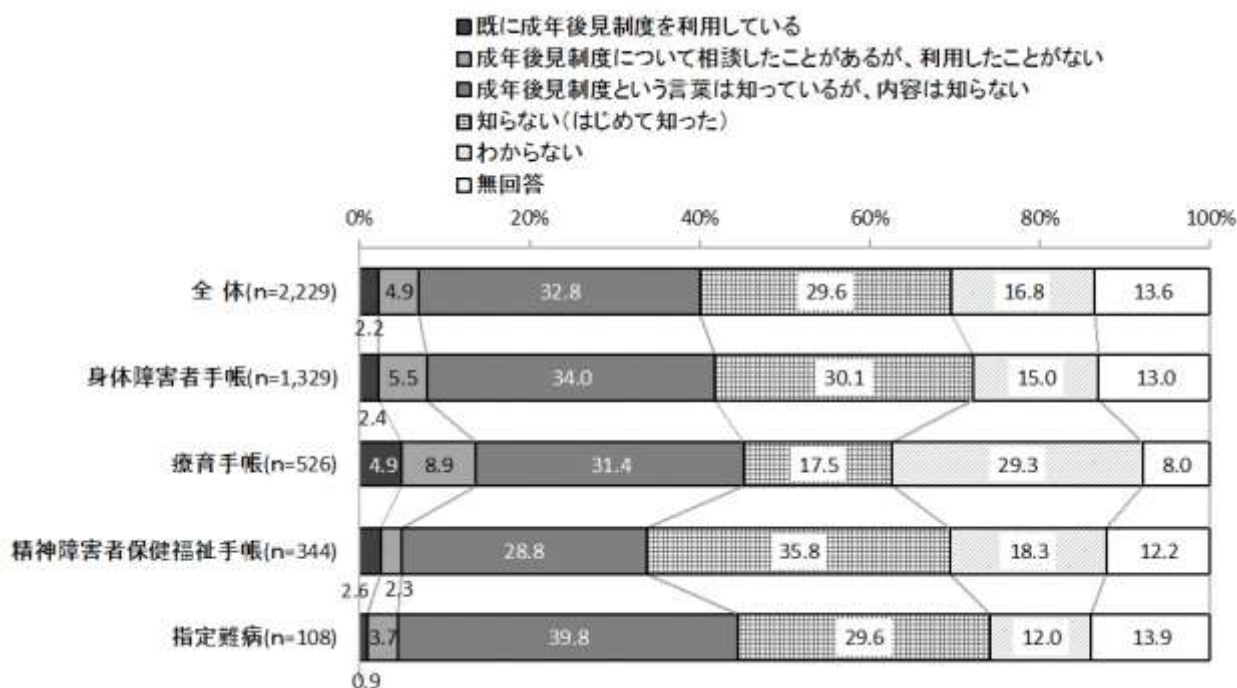
- ・ 身体が不自由なのに、障がい者にみられず陰口を言われる
- ・ 身体的な事を理由に嫌な事を言われた
- ・ 生きている価値がない。空気が汚れる。バカ、シネ等
- ・ 足が悪いことを仮病、悪いふりをしていと言われた
- ・ 大声出して怒鳴ったり、からかったり、おもしろがったり、しゃべり方をまねする
- ・ 大変だね・・・と病気の事を言われる
- ・ 配偶者からの言葉の差別、調停での調停員からの暴言
- ・ 歩き方が変と言われた
- ・ 歩けないなら来るなと言われた。町中で体当たりされ転倒しても誰も助けてくれなかった
- ・ 名前ではばれる。障害名ではばれた
- ・ 通常のトイレで予備校生に「臭い臭い」と数人にからかわれた。■■■■の■■■■■■■■、受験落ちる
- ・ 悪口を言われた。特別支援学校に見学に来た女子高生たちに昼休みに廊下で支援学校の生徒たちの悪口を言っているのを聞きました。悲しかったです
- ・ 授業に出るなど命令され、出席禁止させられる。短大通学の際、単位取得の為の授業内で(作業する時の)、健常人と同等扱いの教師の冷たい態度に涙が出ました(障害原因で出来ない工程作業)
- ・ 障害のある本人(子供)が、他者宅の駐車場チェーンに興味をもってしまい、ガチャガチャと触ったところ、まったく知らない老人(通りすがりの人)が触るな！と怒鳴りつけてきた。障害があることを伝えたが、「知らんがな」と言われる。そして、「他人の家のものは触るな」と怒鳴る。ああ、悲しかった
- ・ 体罰、暴言(裁判中)
- ・ エレベーター前・中にイスが無い、廊下にイスが無い歩けないから必要)
- ・ バス対応
- ・ タクシーで「車椅子をしまっで欲しい」と言ったら「分からない、やってくれ」と運転手に言われた
- ・ タクシーで割引を断られた
- ・ バスの中で運転手さんに叱られた

- ・ バスを降りるとき、障害のある自分だけ、「ありがとう」を言われなかった（料金が半額なので）
- ・ 駅でぶつかってきた
- ・ 駅で改札を通ろうとしたら、待つよう言われ電車に乗るのが遅くなった
- ・ 外出時スーパーで酸素ポンペをけられた、タクシー手帳を出そうとしたらメーターを切られたのが1回
- ・ 杖をけられたりする（駅など）
- ・ 電車の中で嫌がらせ
- ・ 電車内、学校で障害を理由に陰口をいわれた
- ・ 健常者の人と同じように働けない事に嫌味言われたり、なかなか理解されなかった
- ・ 他の人と同じ様な行動がとれない。動作が遅いので置いていかれる
- ・ これまでに2回転職している。すべて病気が原因。体調不良で休みが多くなってしまうため、仕方がないとは思う。差別ということではないかもしれないが、障がいがいなければそうはならなかった
- ・ 給料を下げられた
- ・ 仕事で難しい作業を与えて、会社を辞めさせた
- ・ 仕事の継続が困難な時に継続を強要された
- ・ 私に障害があるため、色々な人に迷惑をかけたり、子供、主人が色眼鏡で見られたような気がする。被害妄想かもしれないが
- ・ 周りの見る目が変わった
- ・ 就労移行、B型職業訓練で障がい者より事業所側の立場を(都合を)押し通され、障がい者の支援になっていない
- ・ 障がいについて理解してもらえなかったり、無視をされたりします
- ・ 障がいを理解されない
- ・ 障害に気づかれず、普通に話され内容が分からない(聴力)
- ・ 職員からのパワハラ
- ・ 心理的に侮辱を受けたり理不尽な思いをした(ネグレクト等含む)
- ・ 身体的特徴
- ・ 静岡で視覚障害者の雇用が無い
- ・ 選挙の時3人も人が付き添い確認(4回位)をしていた
- ・ 体調不良の理解がされず、バカにされた
- ・ からかい
- ・ しゃべれない為に痴漢にあった
- ・ 下にみられる
- ・ 子どもが20才になった時病気の事を告げたら私を避けるようになった
- ・ 市役所で投票して役所の出入りの所で投票に関するアンケートを書くよう職員さんに声をかけられたので、耳が聞こえないことを伝え、その職員さんが「ごめんなさい」と後ずさりされて嫌な気分になりました。そういう似たようなことが店にもあります
- ・ 車椅子の為人の目が気になる
- ・ 若くてオシャレしていると障害者駐車場(車イス)に停めようとしたら、車を降りるまで見ている人が多い。停めないように立ちはだかる人もいる
- ・ 障害があるだけでバカにされ見下された<今も>
- ・ 白い目で見られたり、バカにされた
- ・ 筆談してもらえなかった
- ・ 聞こえたふりをしてよく間違えてなぐられた
- ・ 無視
- ・ 無視・ヒソヒソ話
- ・ 無視や暴言
- ・ 迷惑がられた
- ・ 親族間の会話
- ・ 態度が変わる
- ・ 大学のゼミで先生にばらされた
- ・ 医療を断られた
- ・ 園の入園を断られた
- ・ 何度も仕事をくびになった
- ・ 会社をクビ
- ・ 義務教育を断られた
- ・ 市立こども園を断られた
- ・ 受験を断られた
- ・ 就職先がない
- ・ 障がいで話ができないと断られた
- ・ 障害の重さで断られる事がある
- ・ 乗車拒否、入店拒否など
- ・ 職・資格を断られた
- ・ 幼稚園入園相談を断られた
- ・ ①診察を医師に拒否された②物損事件の申請をしたのに、事件の詳しい状況を話に行ったのに、警察に確認したら交番の担当の人がいい加減に扱い、事件として申請されていなかった
- ・ 知らない人間から嫌がらせを受けた
- ・ 知的障害の人、特に重度については、いろんなことで嫌なことが多いです
- ・ 中傷をうけた
- ・ 犯罪者扱いされる(病院の受付、近所の人々、家族)
- ・ 医者にバカにされるのが一番イヤ
- ・ 病院で気になる事やプライベートな事を言われた
- ・ 歯科で嫌味を言われた
- ・ 上に書かれている事は、外出できたり、ある程度自分の事が出来る人のことのように思います。もっと何も出来ず、外出すらも考えてしまう人達には当てはまらないと思います。でも近頃、病院などはとても対応が変わってきて、安心してかかれる様になっていることはうれしく思います
- ・ 接骨院へ診察に行った時に、先生とあまりかみ合わなかったこと
- ・ 病院で病名を濁して伝えられた。恥ずかしいことではないので、濁さなくてよい
- ・ 病気だからと距離を置いた対応をされた
- ・ 病気入院の為仕事を辞める
- ・ 変な食べ物の人からもらった
- ・ 保育園の入園に時間がかかり、なかなか許可が出ず難航した
- ・ 友達づきあい
- ・ 理解がない

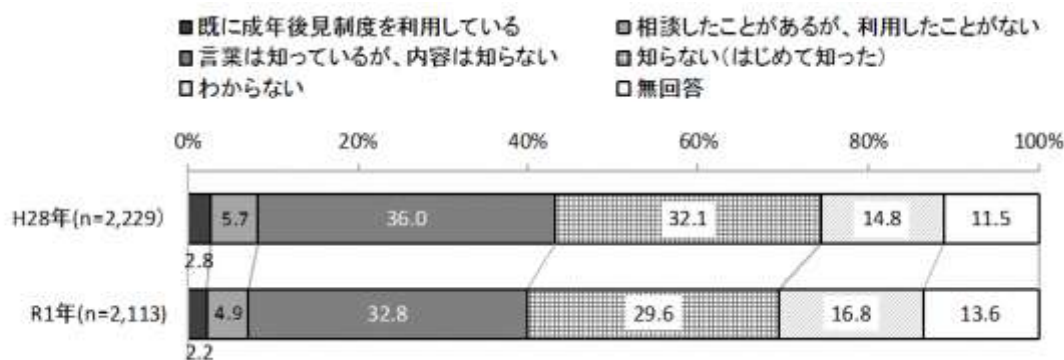
(3) 成年後見制度の認知状況

問 43 あなたは「成年後見制度」があることを知っていますか。(○は1つ)

「成年後見制度という言葉は知っているが、内容は知らない」が身体障害者手帳所有者で34.0%、療育手帳所有者で31.4%、指定難病者で39.8%と最も高い。精神障害者保健福祉手帳所有者は、「知らない(はじめて知った)」が35.8%と最も高くなっている。



<経年変化>

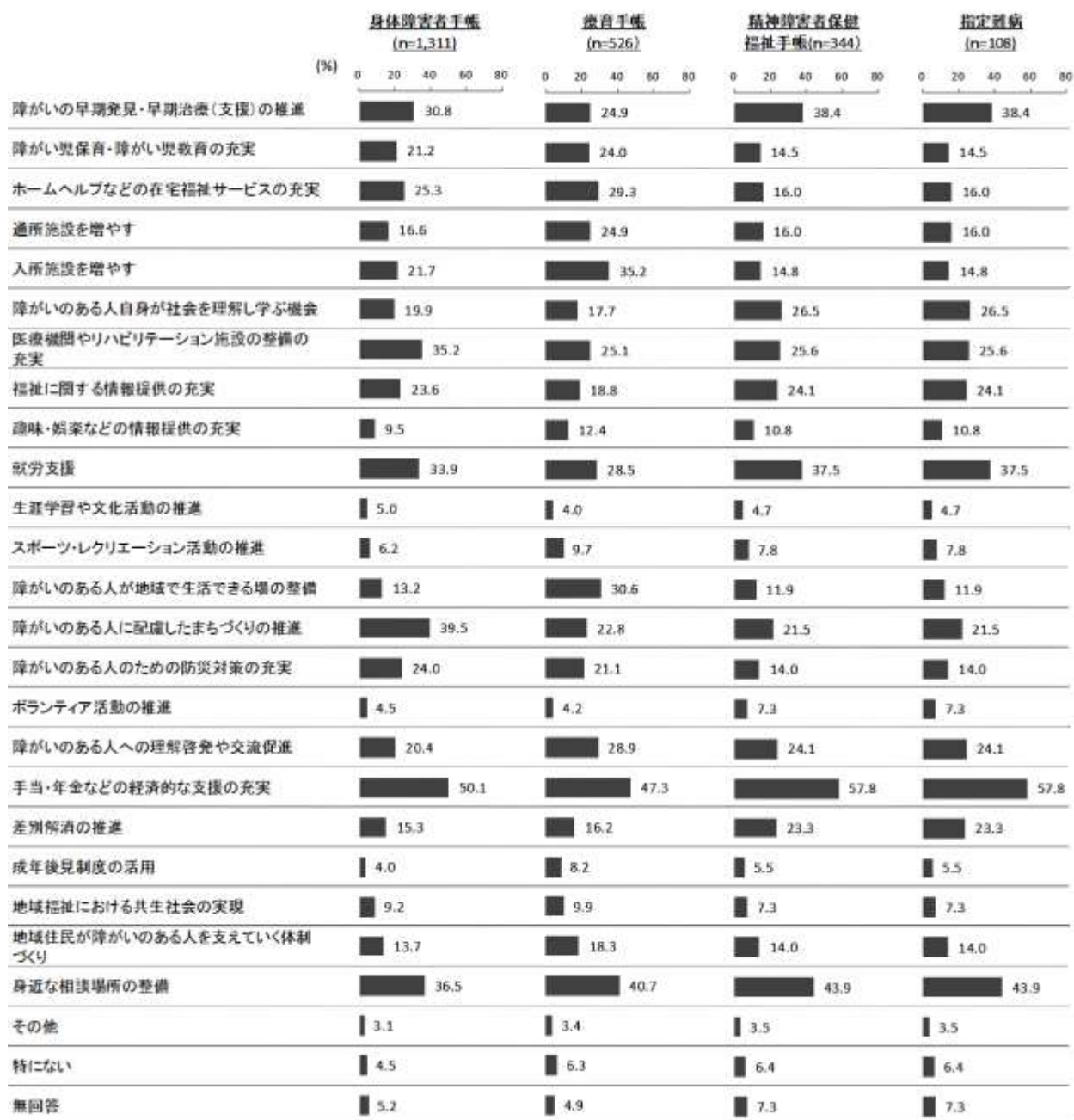


10. 障がい福祉に関する施策について

(1) 障がい福祉事業への要望

問 44 あなたは、障がいのある人が安心して暮らしていくために、どのようなことが必要だと思いますか。
(○は7つまで)

身体障害者手帳所有者、療育手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者、指定難病者のいずれも「手当・年金などの経済的な支援の充実」がトップ。身体障害者手帳所有者では、「障がいのある人に配慮したまちづくりの推進」「身近な相談場所の整備」と続く。療育手帳所有者は、次いで「身近な相談場所の整備」「入所施設を増やす」が高い。精神障害者保健福祉手帳所有者、指定難病者は次いで「身近な相談場所の整備」「障がいの早期発見・早期治療（支援）の推進」が高くなっている。



＜経年変化＞

過去の調査結果と比較すると、「障がい児保育・障がい児教育の充実」「建物や交通機関、道路など障がいのある人に配慮したまちづくりの推進」「医療機関やリハビリテーション施設の整備の充実」が高くなっている。18歳以上については、「就労支援」も増加傾向にある。

- ※平成28年調査・平成26年調査・23年調査では、「障がいの早期発見・早期治療（支援）の推進」は「障がいの早期発見・早期治療事業の推進」、「医療機関やリハビリテーション施設の整備の充実」は「医療機関やリハビリテーション整備の充実」という表現の選択肢になっている。
- ※平成26年調査・平成23年調査「障がいのある人自身が社会を理解し学ぶ機会」「趣味・娯楽などの情報提供の充実」「地域福祉における共生社会の実現」「差別解消の推進」「政権後見制度の活用」は選択肢に含まれていない。
- ※平成23年調査では、「地域に住む人が力を合わせて障がいのある人を支えていく体制づくり」「困ったときに、いつでも何でも相談できる身近な相談場所の整備」は選択肢に含まれていない。「グループホームなどの障がいのある人が地域で生活できる場の整備」は「障がい者が住みやすい住宅の確保や居住環境の改善・整備をはかってほしい」という表現の選択肢になっている。

単位%、()内実数

		障がいの早期発見・早期治療(支援)の推進	障がい児保育・障がい児教育の充実	ホームヘルプ・ショートステイなどの在宅福祉サービスの充実	通所施設を増やす	入所施設を増やす	障がいのある人自身が社会を理解し学ぶ機会	医療機関やリハビリテーション施設の整備の充実	福祉に関する情報提供の充実	趣味・娯楽などの情報提供の充実
18歳未満	H23年 (625)	20.5	39.4	17.4	29.4	18.4		18.7	28.5	
	H26年 (117)	29.9	45.3	22.2	32.5	23.1		24.8	20.5	
	H28年 (215)	27.0	46.0	21.9	24.7	21.4	27.0	33.0	27.0	9.8
	R1年 (211)	29.9	47.4	22.7	26.1	26.1	20.9	33.6	20.4	9.0
18歳以上	H23年 (2186)	16.3	8.6	20.5	16.0	22.6		16.0	21.2	
	H26年 (2378)	32.6	17.1	20.9	16.8	23.7		27.5	19.6	
	H28年 (1910)	28.4	18.7	23.4	19.1	22.4	19.4	34.1	23.8	10.2
	R1年 (1865)	32.4	17.8	22.6	16.2	21.0	21.4	30.5	22.2	9.9

		就労支援	生涯学習や文化活動の推進	スポーツ・レクリエーション活動の推進	グループホームなどの障がいのある人が地域で生活できる場の整備	建物や交通機関、道路など障がいのある人に配慮したまちづくりの推進	障がいのある人のための防災対策の充実	ボランティア活動の推進	障がいのある人への理解啓発や交流促進	手当・年金などの経済的な支援の充実
18歳未満	H23年 (625)	52.6	7.5	10.6	21.8	16.8	41.8	4.2	28.5	45.1
	H26年 (117)	52.1	4.3	5.1	23.9	17.9	18.8	3.4	29.9	55.6
	H28年 (215)	52.1	6.0	10.7	22.3	30.2	26.5	7.0	33.0	53.0
	R1年 (211)	38.4	4.3	8.5	19.0	35.5	29.4	3.3	33.2	47.4
18歳以上	H23年 (2186)	18.3	5.4	6.5	23.7	19.2	24.9	4.4	16.1	39.9
	H26年 (2378)	24.3	5.2	5.3	12.7	28.5	16.2	5.7	14.9	48.2
	H28年 (1910)	35.4	4.7	7.3	17.6	34.7	17.9	5.7	19.1	50.0
	R1年 (1865)	35.0	5.0	6.6	14.9	33.2	18.7	5.2	20.4	49.5

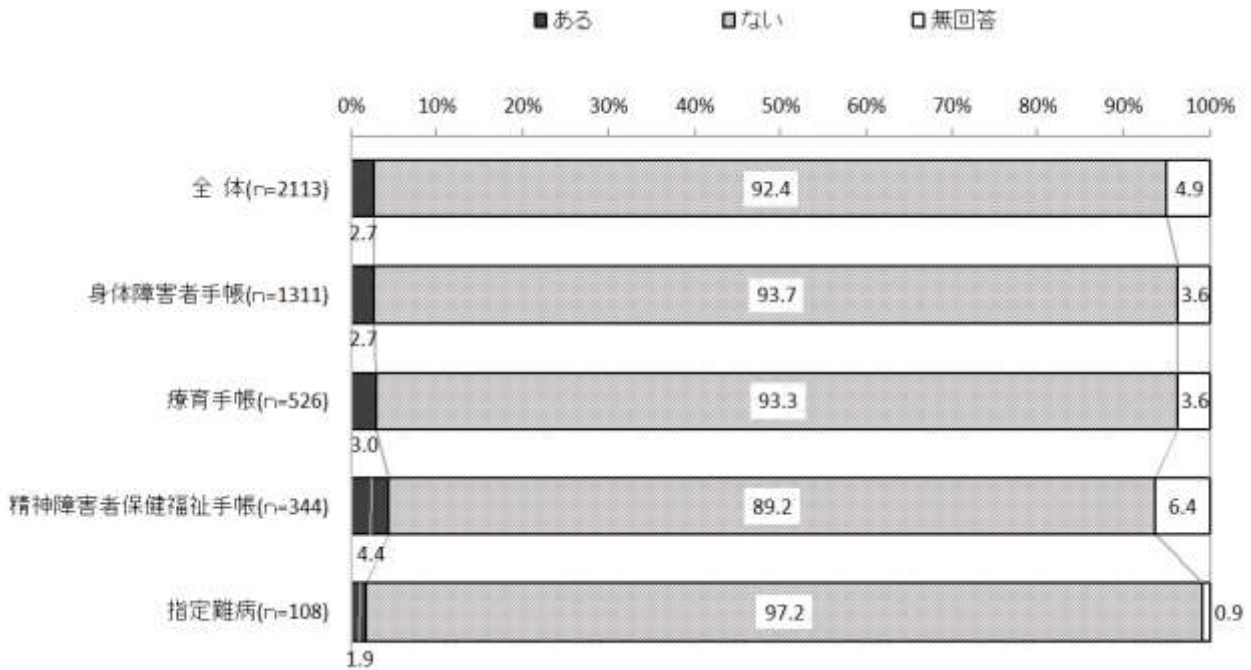
		差別解消の推進	成年後見制度の活用	地域福祉における共生社会の実現	地域に住む人が力を合わせて、障がいのある人を支えていく体制づくり	困った時に、いつでも何でも相談できる身近な相談場所の整備	その他	特にない	無回答
18歳未満	H23年 (625)								
	H26年 (117)				28.2	36.8	5.1	0.9	4.3
	H28年 (215)	21.9	9.3	11.2	25.1	42.8	4.2	0.9	1.4
	R1年 (211)	21.3	5.2	12.3	19.9	37.9	4.3	1.9	0.9
18歳以上	H23年 (2186)								
	H26年 (2378)				16.1	42.4	1.7	3.8	10.5
	H28年 (1910)	15.8	5.1	8.5	16.4	42.1	2.9	3.9	6.9
	R1年 (1865)	16.1	4.8	8.8	14.0	39.2	2.8	5.1	7.2

静岡市立図書館の福祉サービスについて

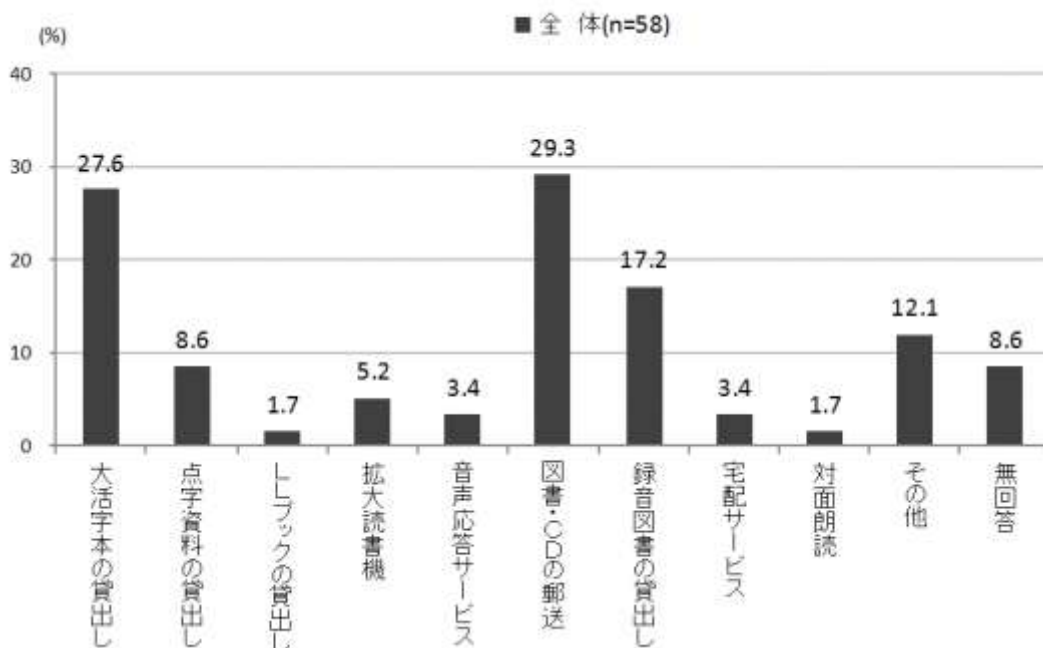
(1) 静岡市立図書館の福祉サービスの利用有無

問 45 あなたは今までに静岡市立図書館の福祉サービスを利用したことがありますか。
(○は1つ)

身体障害者手帳所有者、療育手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者、指定難病者のいずれも「ない」が9割を占める。サンプル数が少ないので参考程度だが、利用したサービスは全体で「図書・CDの郵送」「大活字本の貸し出し」が2割台と特に高くなっている。



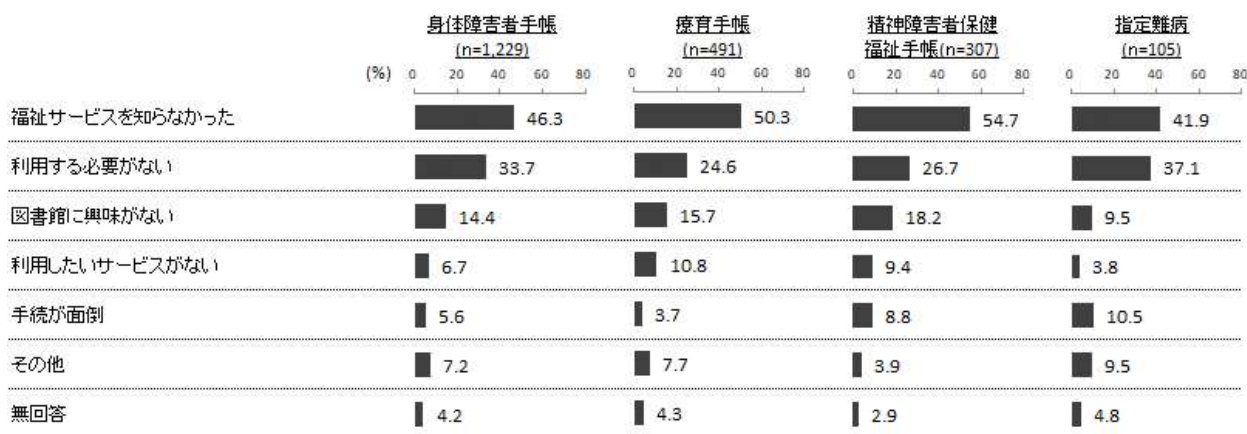
付問① (問 45 で「1 ある」と答えた方にお伺いします)
利用したサービスをお答えください。(○は2つまで)



(2) 静岡市立図書館の福祉サービスを利用しなかった理由

問 46 (問 45 で「2 ない」と答えた方にお伺いします)
「ない」と答えた理由を教えてください。(○は1つ)

身体障害者手帳所有者、療育手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者、指定難病者のいずれも「福祉サービスを知らなかった」が最も高く、4～5割を占める。



(3) 今後、静岡市立図書館に求める福祉サービス

問 47 今後、どのサービスの充実を求めますか。(○は1つ)

身体障害者手帳所有者、療育手帳所有者、指定難病者では「障がい者用設備の充実」が2～3割で最も高く、精神障害者保健福祉手帳所有者では「福祉サービスの情報発信」が25.9%で高い。

